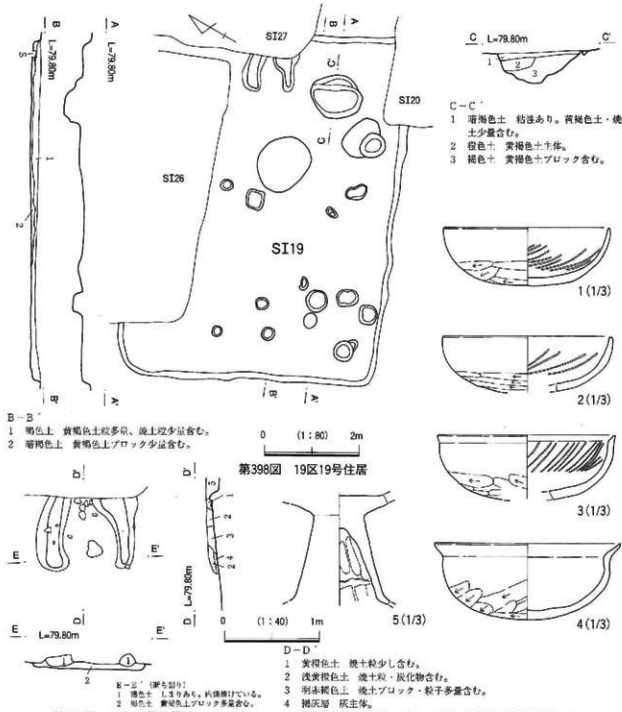


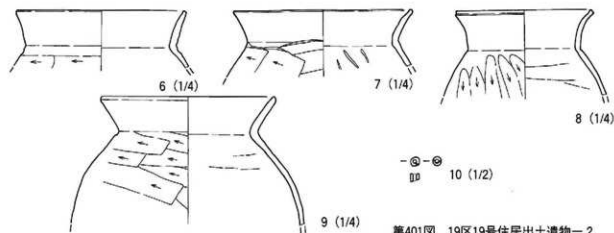
19区19号住居

位置 19区 規模形状 東西7.4m南北5.5mの長方形プランを呈する。残存壁高は0.20mを測る。主軸方位 東-27°-北 重複 20号・26号・27号住居に壊される。床面 はほぼ平坦面で、貼床が確認される。カマド 東壁中央やや市。27号住居に焼境部を壊される。奥行0.8m+a、焚き口幅0.55m。柱穴 小ピットが多い。貯蔵穴 住居南東隅にある。1.1m×0.9mの楕円形プランで、深さ0.42mである。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・高坏、石製模造品白玉 所見 6世紀初頭 備考 土師器の内湾口縁環は、口縁がやや開き気味で内面の暗文がやや粗雑になっている。土師器高坏は、破片であるが大きく脚が張るタイプと考えられる。



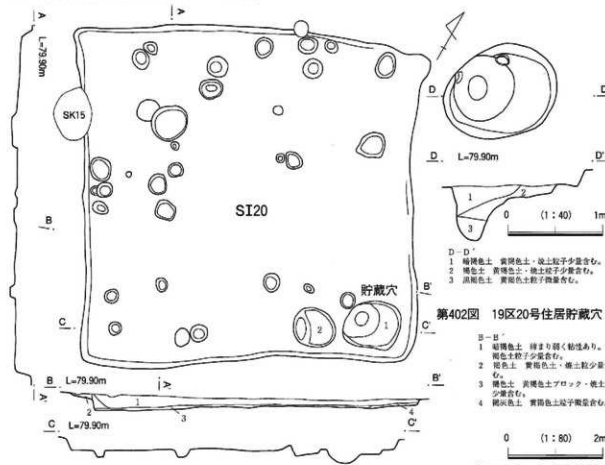
第399図 19区19号住居カマド

第400図 19区19号住居出土遺物-1



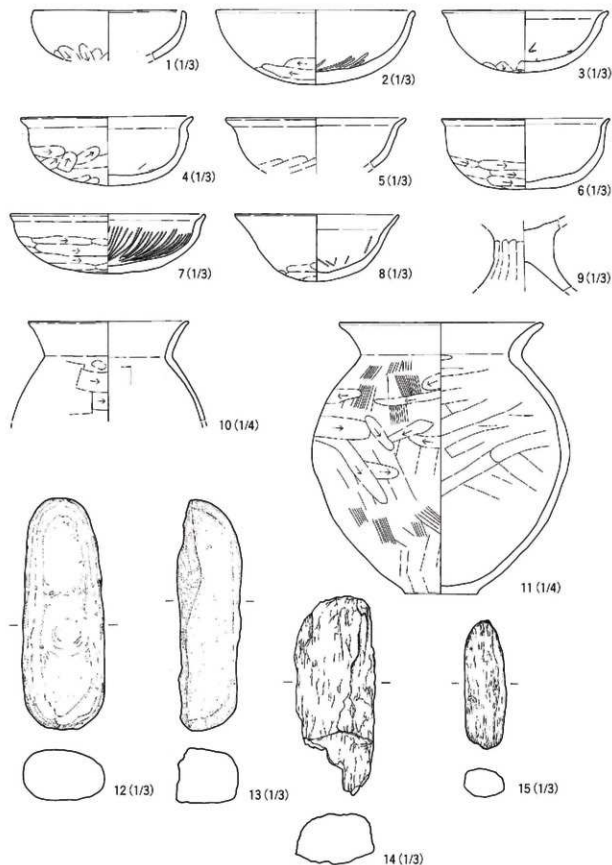
19区20号住居

位置 19区 規模形状 一辺6.3mの正方形プランを呈する。残存壁高は0.33mである。主軸方位 東-30°-北 重複 19号・28号住居を掘り込み、15号・24号土坑に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 不明、壊されている可能性が高い。柱穴 主柱穴4基と補助柱穴がある。貯蔵穴 住居南東隅に2基ある。貯蔵穴1は、住居南東隅にある。1.1m×1.0mの楕円形プランで、深さ1.25mある。貯蔵穴2は、貯蔵穴1の西にある。0.9m×0.8mの楕円形プランで、深さ0.22mある。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・高坏、鹿角石 所見 6世紀初頭 備考 土師器壺は、やや胴部に丸みをもつ。土師器杯のうち、内湾口縁環は口径15.8cmと大型のものの存在や、外面のヘラケズリ範囲が少なくなる傾向がある。内斜口縁環は、口縁がやや長いものや、殆ど屈曲を持たないものなどがある。

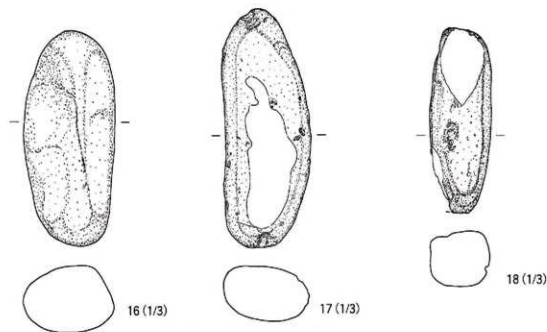


第402図 19区20号住居貯蔵穴

第403図 19区20号住居



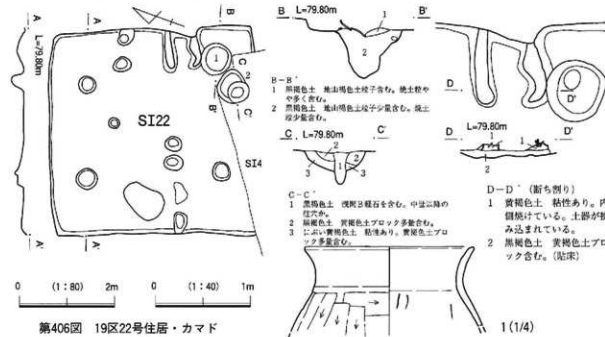
第404図 19区20号住居出土遺物-1



第405図 19区20号住居出土遺物-2

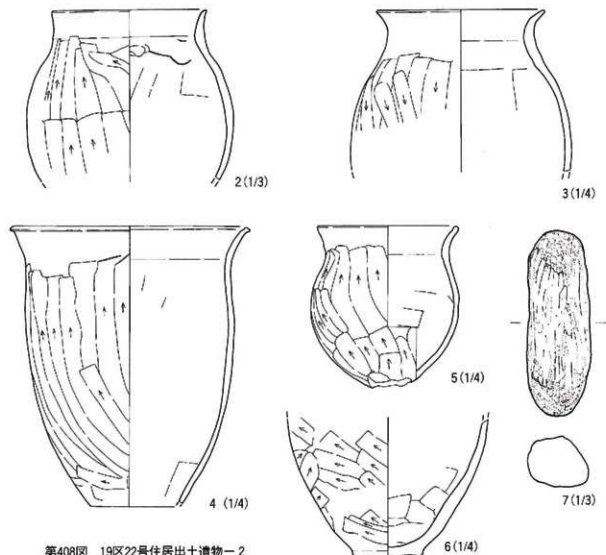
19区22号住居

位置 19区 規模形状 東西4.3m南北4.25mの正方形プランを呈する。残存壁高は0.10mである。主軸方位東-20°北 重複 4号住居に横される。床面 はほぼ平坦で、貼床が確認される。カマド 東壁中央やや南。奥行0.8m、焚き口幅不明。柱穴 隅に主柱穴がある。貯蔵穴 住居南東隅に2基ある。貯蔵穴1は、カマドの隣、住居の南東隅にある。0.7m×0.6mの楕円形プランで、深さ0.42mある。貯蔵穴2は、貯蔵穴1の西となる。0.7m×0.65mの不正円形プランで、深さ0.32mである。その他付属施設 なし 遺物 土師器・甌、磨礫石 所見 6世紀初頭 備考 土師器は、やや長胴化している。甌は、頸部の屈曲がゆるくやや大型になっている。なお、No5の小型甌は焼成後、底部を内側から穿孔している。



第406図 19区22号住居・カマド

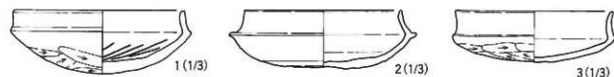
第407図 19区22号住居出土遺物-1



第408図 19区22号住居出土遺物-2

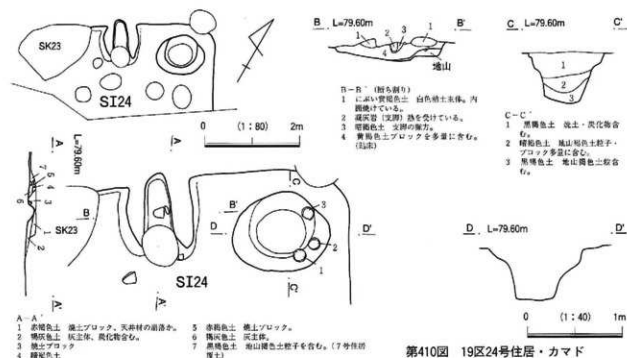
19区24号住居

位置 19区 規模形状 不明 主軸方位 東-13° 一北 重複 9号住居を掘り込み、23号土坑に壊される。床面 はほぼ平坦で、貼床が確認される。 カマド 北壁中央にある。奥行0.8m、焚き口幅0.3m（推定）。 柱穴 主柱穴2基を確認。 貯蔵穴 住居北東隅にある。1.10m×0.80mの楕円形プランで、深さ0.52mである。 その他付属施設 なし 遺物 土師器環、須恵器杯身 所見 須恵器杯身（2）は、たちあがりはやや内傾し幾分長い。底の回転ヘラケズリ範囲は小さい。土師器杯は、この段階の須恵器杯身を模倣したと考えられ、肉厚で内面に放射状の暗文があるものと、器肉が薄く口縁がやや立ち気味の土器とがある。



第409図 19区24号住居出土遺物

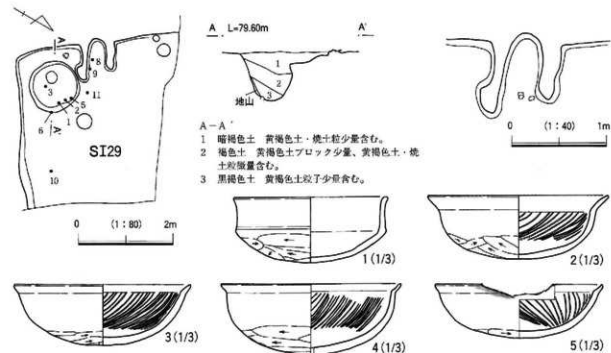
第1節 堅穴住居



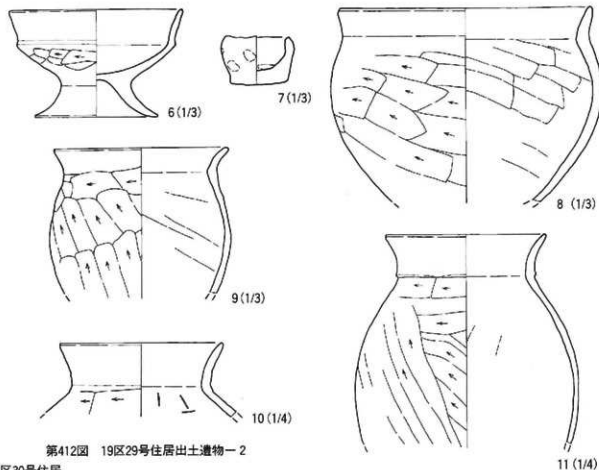
第410図 19区24号住居・カマド

19区29号住居

位置 19区 規模形状 南北3.5m+α、東西3.4m+α、方形プランを呈すると推定される。 主軸方位 西-20° 一南 重複なし。床面 はほぼ平坦である。 カマド 西壁中央にある。奥行1.4m、焚き口幅0.40m。 柱穴 不明 貯蔵穴 住居南西隅にある。直径1.1mの円形プランで、深さ0.48mである。 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・杯・高杯、手捏ね土器 所見 5世紀末 備考 土師器甕は、やや長胴化している。高杯は、小型の根椀に短い脚がつく。なお、No5の土器は、一部欠けた口縁に窯が付着している。



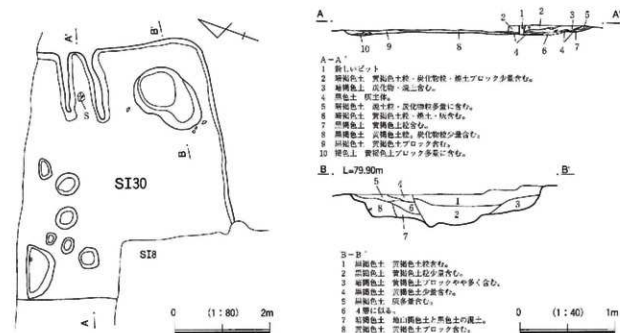
第411図 19区29号住居・カマド・出土遺物-1



第412図 19区29号住居出土遺物-2

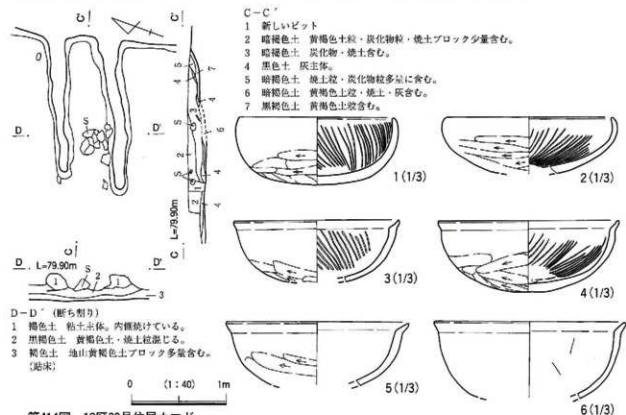
19区30号住居

位置 19区 規模形状 東西5.25m南北4.6m+a、方形プランを呈すると推定される。主軸方位 東-10°-北 重複 8号住居に隣される。床面 はほぼ平坦で、かなり締まった粘床が確認できる。カマド 東壁中央にある。奥行1.60m、焚き口幅0.45m。燃焼部やや前より川原土の支脚がある。柱穴 不明



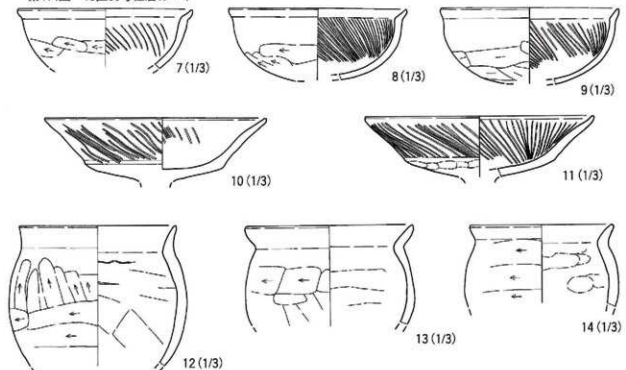
第413図 19区30号住居

貯蔵穴 住居南東隅にある。1.5m×1.0m、深さ0.35mである。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・小型壺・壺・杯・高杯 所見 5世紀後半 備考 土師器壺は、胴部に丸みをもつ。土師器壺(20)は胴部が球形で、口縁に段をもつ。土師器杯は、内斜口縁と内湾口縁がある。内斜口縁は口縁が小さく外傾し、暗文も丁寧である。内湾口縁は底部がやや肉厚で、口縁が鋭く内湾する。高杯は、内外面暗文が施される。

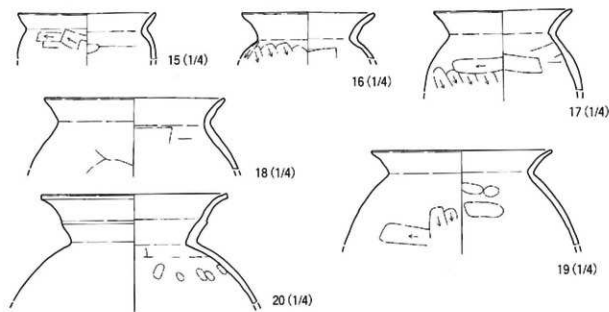


- C-C'
- 新しいピット
 - 暗褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒・焼土ブロック少量含む。
 - 暗褐色土 炭化物・焼土含む。
 - 黒色土 灰主体。
 - 暗褐色土 炭土粒・炭化物粒多量に含む。
 - 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土・灰含む。
 - 黒褐色土 黄褐色土粒含む。
- D-D' (断面取り)
- 褐色土 粘土主体。内傾している。
 - 暗褐色土 黄褐色土・焼土粒混じる。
 - 褐色土 油山黄褐色土ブロック多量含む。
- (施床)

第414図 19区30号住居カマド



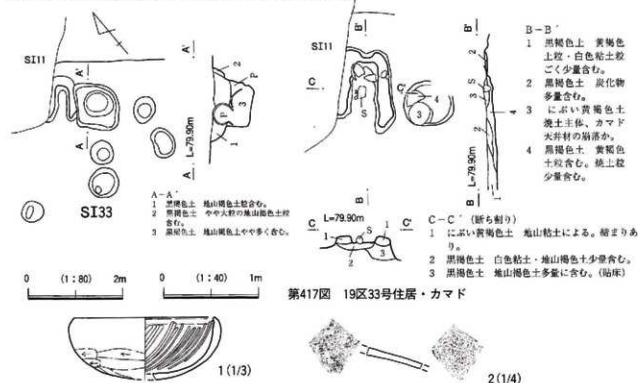
第415図 19区30号住居出土遺物-1



第416図 19区30号住居出土遺物—2

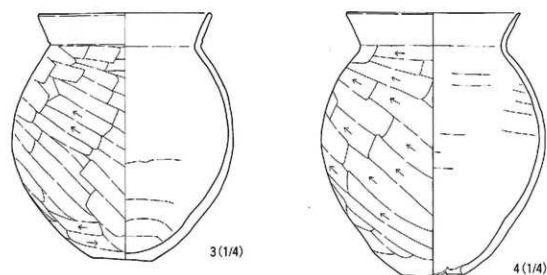
19区33号住居

位置 19区 規模形状 カマドと貯蔵穴を中心に確認。規模不明。 主軸方位 不明 重複 10号・11号住居に壊される。 床面 ほほ平坦である。 カマド カマドは、西軸を11号住居に壊される。位置は東壁中央である。奥行0.8m、焚き口幅不明。燃焼部に川原石の支脚がある。 柱穴 不明 貯蔵穴 カマドの東にある。0.9m×0.9mの正方形プランで、深さ0.45mである。 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏、須恵器甕 所見 5世紀後半 備考 土師器甕は胴部に丸みをもつ。No 4の甕は、底が焼成後穿孔され底から火を受けている痕跡がある。土師器内湾口縁坏は、口径11.2cmとやや小型である。



第417図 19区33号住居・カマド

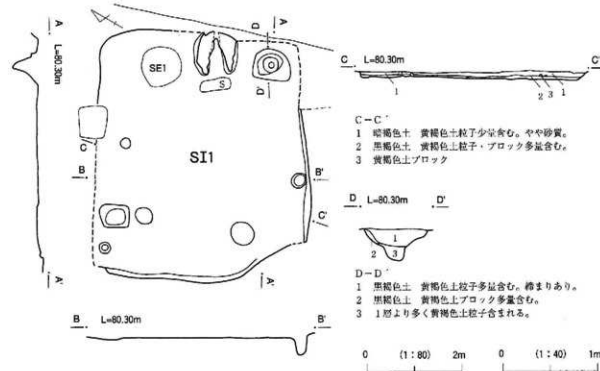
第418図 19区33号住居出土遺物—1



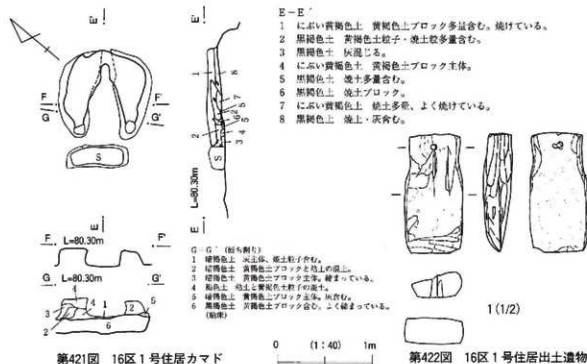
第419図 19区33号住居出土遺物—2

16区1号住居

位置 16区 規模形状 東西5.25m、南北4.50mの方形プランを呈する。残存壁高は0.15mである。 主軸方位 東-35° 一北 重複 9号・11号住居を掘り込む。1号井戸、83号溝に壊される。 床面 貼床が確認される。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行0.8m、焚き口幅0.45mである。両袖先端部の袖石は凝灰岩である。天井石に使われていたとみられるやや長い凝灰岩がカマド前に崩落していた。 柱穴 主柱穴2基が確認できる。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形プランで、長軸0.78m、短軸0.60m、深さ0.50mを測る。長軸方向はカマドに対して直交、東壁に平行である。 その他付属施設 西壁に棚施設がある。 遺物 石製模造品斧(滑石製)、土師器甕・坏片 所見 5世紀末

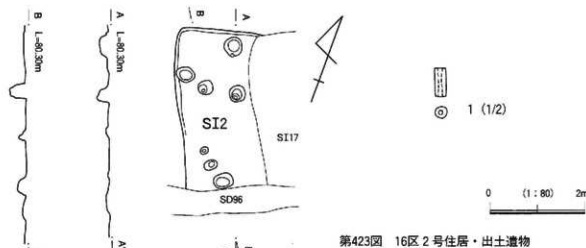


第420図 16区1号住居



16区 2号住居

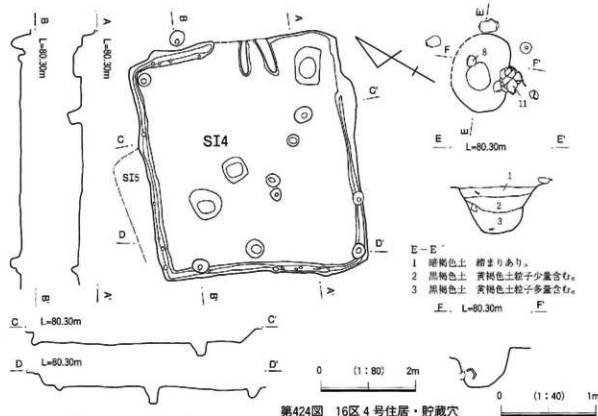
位置 16区 規模形状 長辺3.40+αm、短辺1.70m+α、残存壁高0.04mを測る。住居の大半をほかの遺構に壊されているが、方形プランと推定される。主軸方位 北-10°-西 重複 17号住居、96号溝に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 径0.32m、深さ0.23mと径0.32m、深さ0.36mのピットが検出されている。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 蛇紋岩製管玉、土師器壺・坏片 所見 5世紀末備前 滑石製管玉は、壊れて破片の状態であった。整理の段階で接合し図化した。



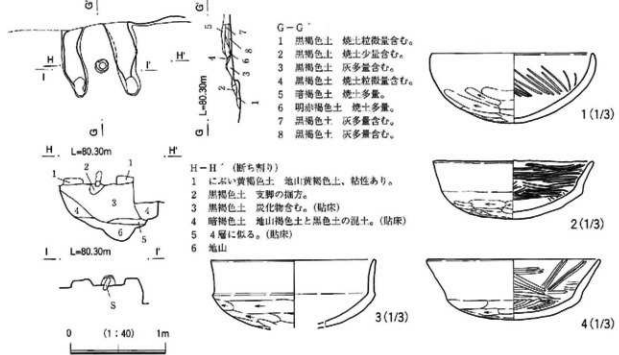
16区 4号住居

位置 16区 規模形状 長辺4.90m、短辺4.40mの方形プランを呈する。残存壁高0.25mを測る。主軸方位 東-43°-北 重複 5号住居を掘り込む。床面 はほぼ平坦である。カマド 東端中央やや南に位置する。奥行0.86m+α、焚き口幅0.40mを測る。両軸先端部にはかたい黄褐色土ブロックで補強されている。燃焼部中央付近で、粘土を用いて固定した川原石に土師器の坏が伏せるようにかぶさる状態が確認された。支脚と考えられる。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅に位置する。構内形を呈し、長軸0.80m、短軸0.55m、深さ0.49mを測る。その他付属施設 カマド部分、南東コーナーを除いた部分から壁周溝を検出した。幅は、0.15~0.20m、深さ

0.08~0.10mである。周溝内から部分的に小ピットを検出した。遺物 土師器壺・坏・高坏、須恵器壺・壺所見 6世紀第1四半期 備考 土師器壺は、かなり長閑化している。口縁はあまり外反せず、胴部最大幅は中位にある。土師器坏は、口縁の屈曲が緩やかで、内面の暗文がやや雑で口径が大きな内斜口縁坏、同じく形が崩れ大きな内湾口縁坏、口縁の直立する須恵器模倣坏がある。そして、これに口縁が外反し内面をヘラミガキし黒色処理した坏が共存している。

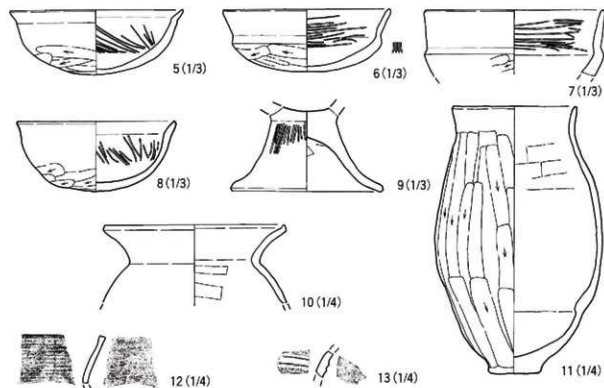


第424図 16区 4号住居・貯蔵穴



第425図 16区 4号住居カマド

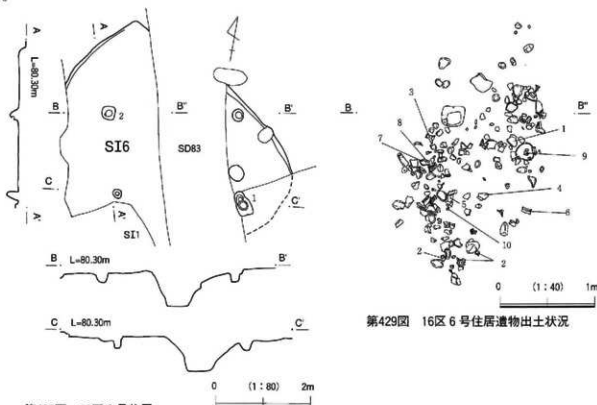
第426図 16区 4号住居出土遺物一



第427図 16区4号住居出土遺物-2

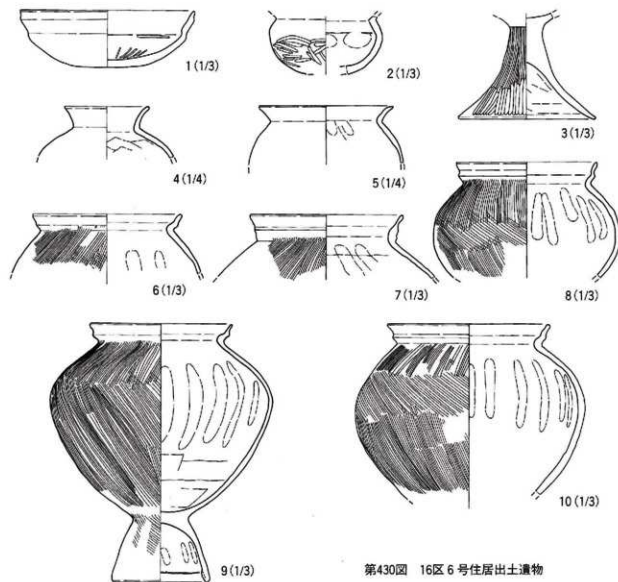
16区6号住居

位置 16区 規模形状 隅丸長方形と推定される。長辺5.20m、短辺2.00m+ α 、残存壁高は0.14mを測る。
主軸方位 西-40°-北 重複 1号・9号・11号・28号住居、83号溝に横されている。床面 はほぼ平坦である。



第428図 16区6号住居

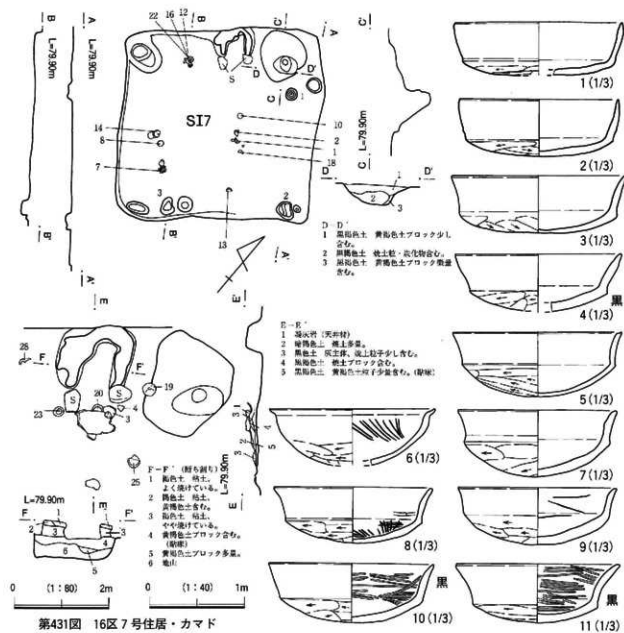
炉 不明 柱穴 2基検出している。柱穴1 長軸0.32m、短軸、0.30m、深さ0.19m 柱穴2 径0.28m、深さ0.20m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 不明 遺物 土師器甕、S字甕、小型S字甕、壺、鉢、高坏、 所見 古墳前期



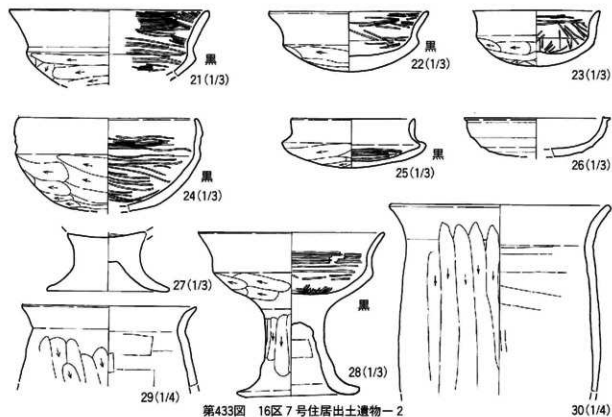
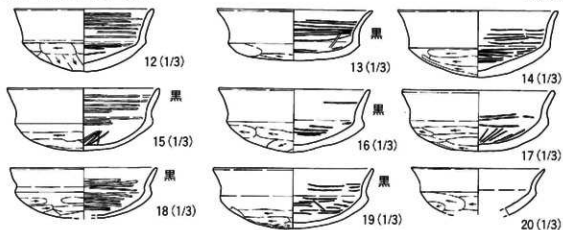
第430図 16区7号住居出土遺物

16区7号住居

位置 16区 規模形状 長辺4.10m、短辺4.00mの正方形プランを呈する。残存壁高は0.15mを測る。主軸方位 北-45°-西 重複 43号住居を掘り込む。床面 はほぼ平坦で、貼床が確認される。カマド 北壁中央に位置する。奥行0.90m+ α 、燃焼部幅0.37mを測る。両袖先端部の礎石は凝灰岩である。柱穴 3基検出している。北西部の柱穴は確認できなかった。柱穴1 径0.22m、深さ0.41m 柱穴2 長軸0.34m、短軸0.30m、深さ0.18m 柱穴3 長軸0.34m、短軸0.28m、深さ0.15m 貯蔵穴 カマドの右に並ぶようにある。楕円形を呈し、長軸1.10m、短軸0.85m、深さ0.45mを測る。長軸方向はカマド方向に平行する。 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕、坏、高坏、須恵器坏身 所見 6世紀第1四半期 備考 土師器甕はやや大型で長胴化している。坏は、伝統的な内彎口縁、内斜口縁、須恵器坏模倣のほかに、内面をヘラミガキし黒色処理した土器が多い。黒色土器には、大きいものともかなり小型のものまでバリエーションがある。高坏は、坏部内面に黒色処理を施したもので(28)、やや長い脚がつく。



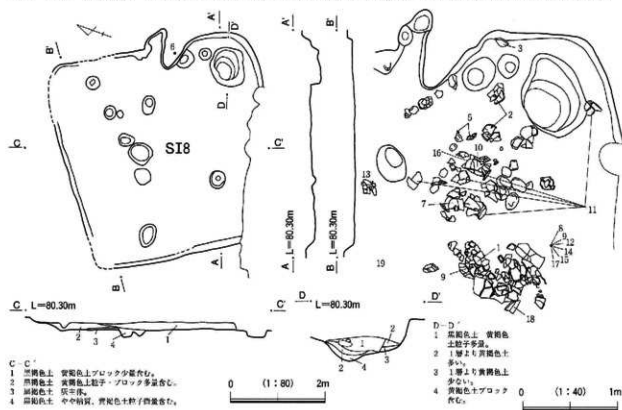
第432図 16区 7号住居出土遺物 - 1



第433図 16区 7号住居出土遺物 - 2

16区 8号住居

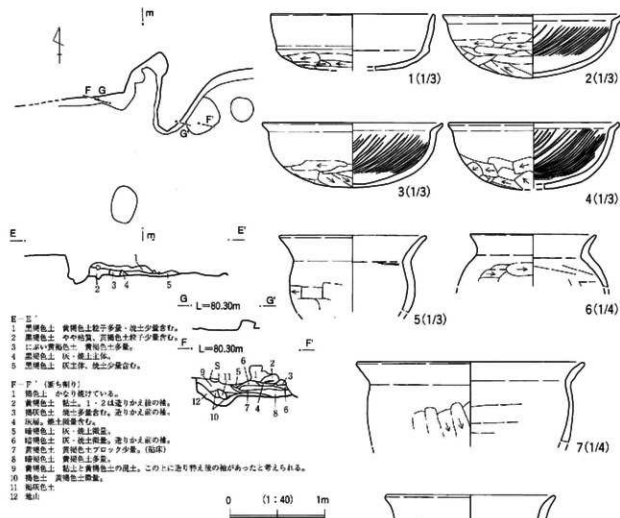
位置 16区 規模形状 長辺5.15m、短辺4.50m、残存壁高0.15mを測る。台形で北側に張り出しがみられる。



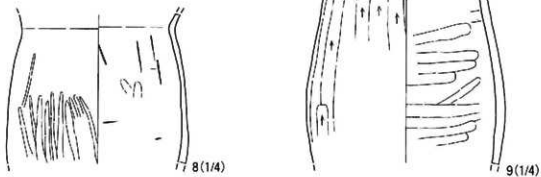
第434図 16区 8号住居

第435図 16区 8号住居出土土状況

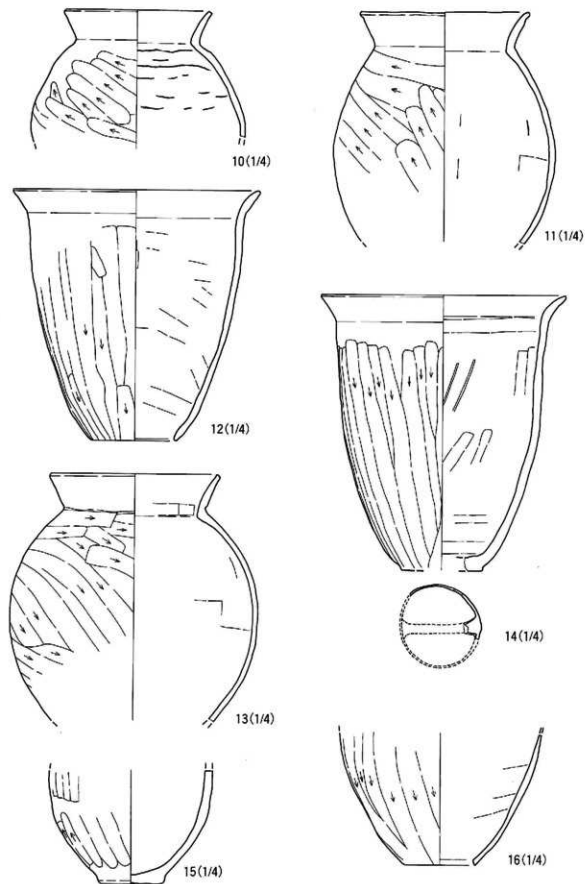
主軸方位 東-35° 北 覆積 193号住居に壊れる。 床面 やや凸凹がある。貼付が確認できる。 カマド 東壁中央やや南側に位置する。高約0.8m、笑き口幅0.35mを測る。然焼跡の大部分は住居壁を掘り込んでつくられている。 柱穴 位置を多数抽出した柱穴は特定できない。 貯蔵穴 南東隅に位置する。横円形を呈し、長軸0.90m、短軸0.70m、深さ0.46mを測る。長軸方向はカマドに平行する。その他付属施設 なし 遺物 土師器・灰・灰、濃赤褐色 土師 5世紀第4半期 土師器 土師器の大部分が球形あるいは、やや長円形している物もある。灰は内湾口縁上 斜貝 5世紀第4半期 土師器 土師器の大部分が球形あるいは、やや長円形している物もある。灰は内湾口縁上 内点口縁部が主体で、1内点口縁部が主体(1)がある。



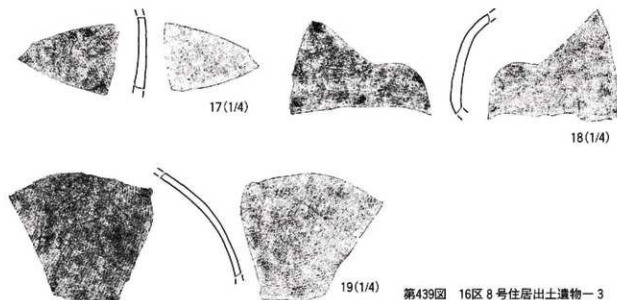
第436図 16区8号住居カマド



第437图 16区8号住居出土遺物—1



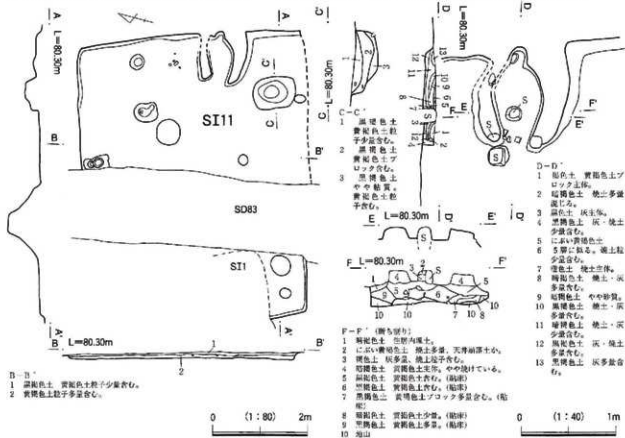
第438图 16区8号住居出土遗物—2



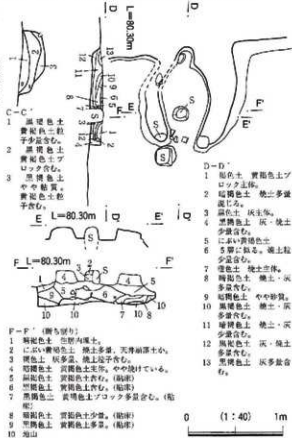
第439図 16区8号住居出土遺物-3

16区11号住居

位置 16区 規模形状 重葺が激しく残存状況は悪いが、長方形プランと推定される。長辺6.00m、短辺4.90m、残存壁高0.13mを測る。主軸方位 東-16°-北 重葺 6号・32号住居を掘り込み、1号住居、83号溝に壊される。床面 はほぼ平坦で貼床が確認される。カマド 東壁中央やや南に位置する。左袖の一部は削平されている。奥行き1.11m、突き口幅0.30mを測る。両袖先端部の袖石は凝灰岩である。燃焼部中央の凝灰岩は文割と考えられる。柱穴 ピットを多数検出したが主柱穴とは特定できない。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し長軸0.92m、短軸0.68m、深さ0.29m。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・甌・杯、滑石片

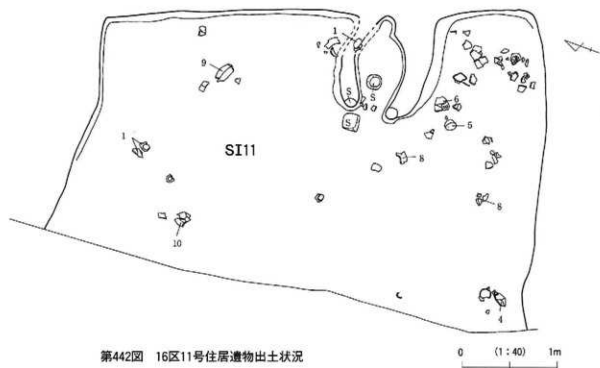


第440図 16区11号住居

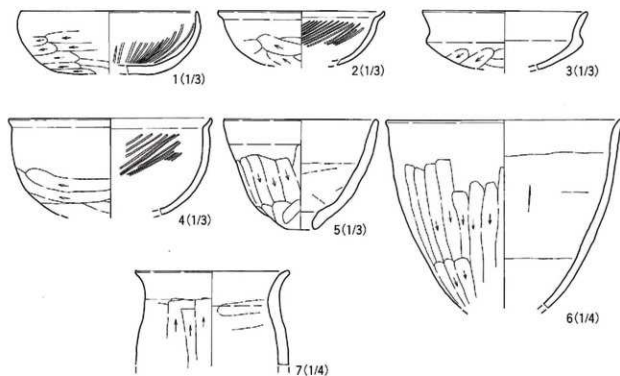


第441図 16区11号住居カマド

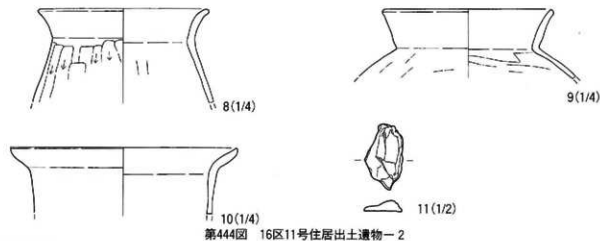
所見 6世紀第1四半期 備考 土師器甕はかなり長胴化したものと、球形甕とがある。土師器杯のうち内斜口縁と内寄口縁杯は、口径16.0cmの内斜口縁杯(4)に代表されるように大型品が目立つ。また須恵器模倣杯は、口縁がかなり外反している。滑石片は、周囲を打ち割ったもので、出土が単独でもあり、工房とは考えにくい。



第442図 16区11号住居遺物出土状況



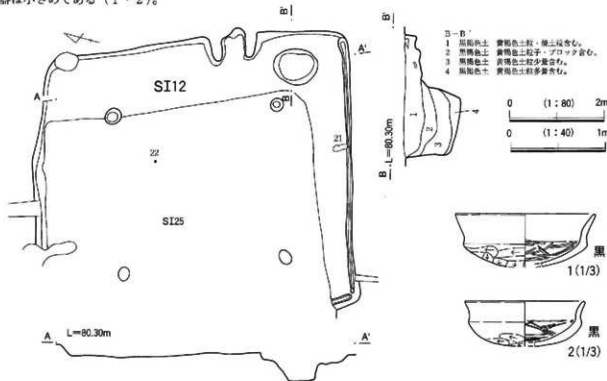
第443図 16区11号住居出土遺物-1



第444図 16区11号住居出土遺物-2

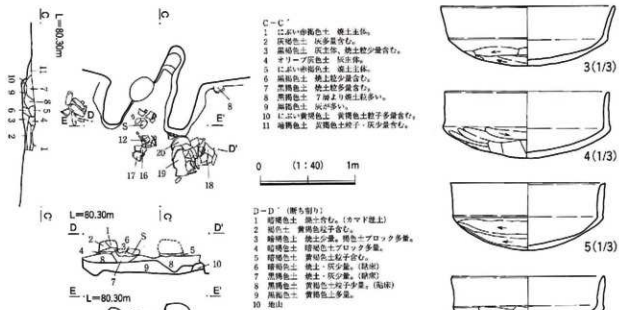
16区12号住居

位置 16区 規模形状 長辺6.50m、短辺5.85mの長方形プランを呈する。残存壁高0.19mを測る。主軸方位東-35°-北 重複 10号住居を掘り込み、25号住居に壊される。床面 貼床が認められる。カマド 東壁中央やや南に位置する。両袖先端部分は削平されていた。奥行0.8m+a、突き口幅不明。右袖先端部付近から土師器甕・甔が出土している。またカマド北では鹿角石がまとまって出土している。燃焼部の多くは住居壁の内側で、部分的に住居壁を掘り込んでいる。燃焼部中央から土師器甕片の上に川原石が、さらにその上に土師器片が重なった状態を検出した。支脚と考えられる。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形プランで長軸0.93m、短軸0.78m、深さ0.44mを測る。その他付属施設 南壁から横周溝を検出した。幅0.08~0.10m、深さ0.10m前後である。遺物 土師器甕・坏・甔、蛇紋岩製管玉、大型紙石(ダイサイト製) 所見 6世紀第1四半期 備考 土師器甕はかなり長胴化している。坏のうち、内斜口縁坏は、口縁の屈曲も殆ど持たない個体や大型型が目立つ。模倣坏は大型で口縁が直立ないし外傾する。内面をヘラミガキし、炭素を吸着させた黒色土器は小さめである(1・2)。

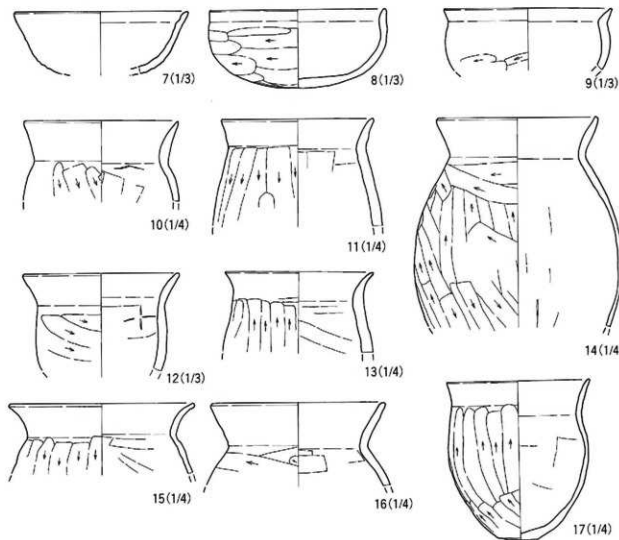


第445図 16区12号住居

第446図 16区12号住居出土遺物-1

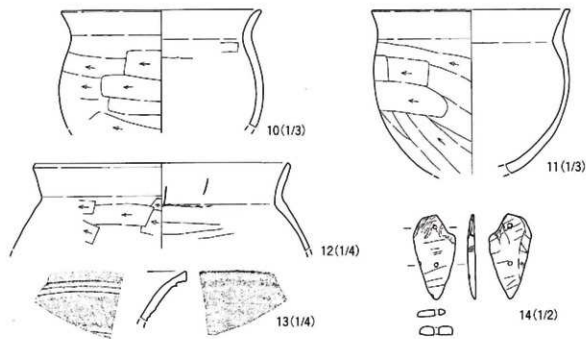


第447図 16区12号住居カマド



第448図 16区12号住居出土遺物-2

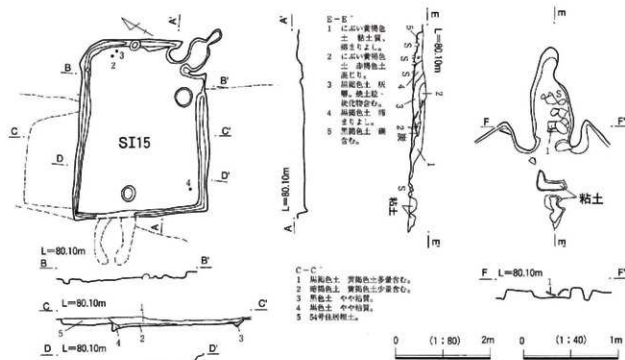
遺物 土師器、石製模造品剣形・刀子・白玉 所見 6世紀前半 備考 石製模造品の出土が多い。



第453図 16区13号住居出土遺物-2

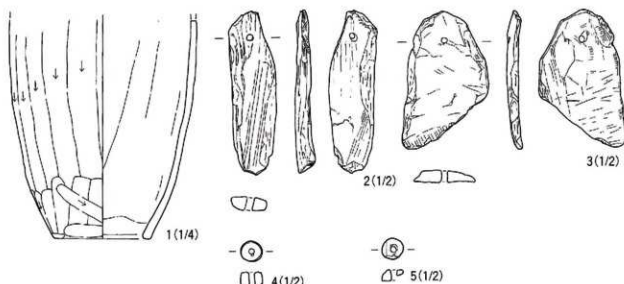
16区15号住居

位置 16区 規模形状 長辺3.70m、短辺2.80mと長方形プランを呈する。残存壁高0.14mを測る。主軸方位 東-10°-南 重複 14号・33号・54号・59号住居を掘り込む。床面 ほぼ平坦。カマド 東南のコーナーに位置する。奥行1.11m、燃焼幅0.38m、煙道部長0.35mを測る。袖は住居内に張り出すが、燃焼部の多くは住居横の外側に地山を掘ってつくられている。煙道部は住居壁の外側で、緩やかに立ち上がる。柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 カマド部分を除き壁周溝を検出した。幅0.20m前後、深さ0.05m前後である。



第454図 16区15号住居

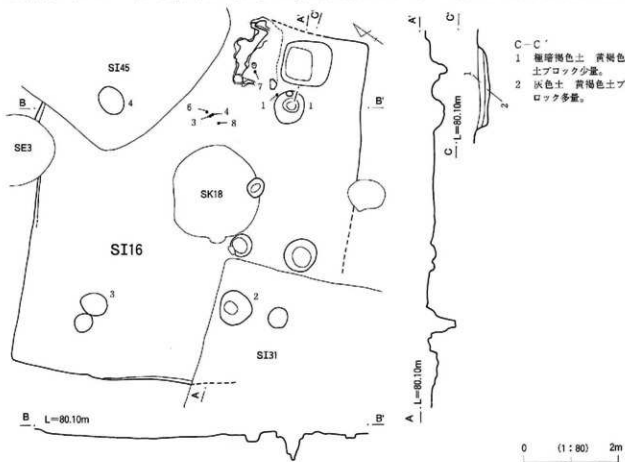
第455図 16区15号住居カマド



第456図 16区15号住居出土遺物

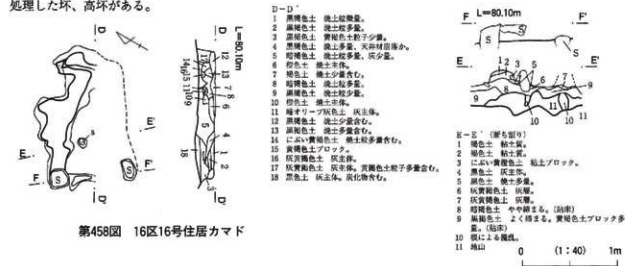
16区16号住居

位置 16区 規模形状 形状は方形と推定される。長辺7.50m+α、短辺6.50m+α、残存壁高0.17mを測る。主軸方位 東-31°-北 重複 激しい。13号・38号住居を掘り込み、31号・45号住居、18号土坑に壊される。

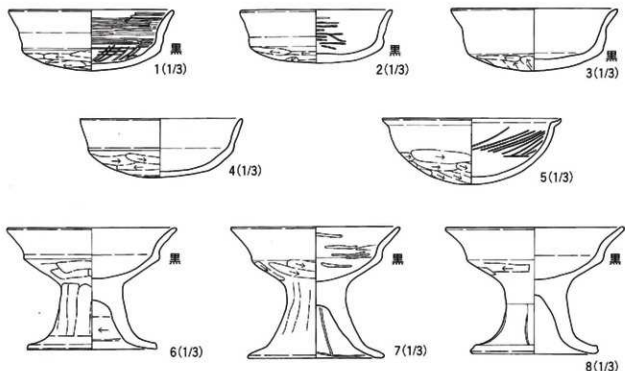


第457図 16区16号住居

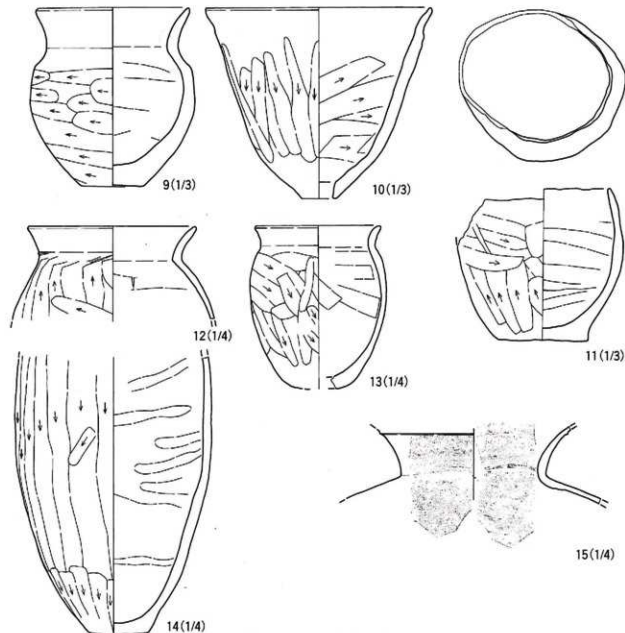
床面 黄褐色土粒の混じった黒褐色土で貼床としている。 カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行1.20m、焚き口幅0.58mを測る。右袖部分は袖石だけが残っていた。焚き口部分で天井石の一部と思われる凝灰岩を検出した。燃焼部中央やや左で、長さ20cm幅10cmの川原石が埋め込まれていた。支脚と考えられる。 柱穴 4基検出している。柱穴1 長軸0.68m、短軸0.62m、深さ0.59m 柱穴2 径0.40m、深さ0.21m 柱穴3 長軸0.54m、短軸0.46m、深さ0.13m 柱穴4 長軸0.58m、短軸0.50m、深さ0.58m 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。隅丸方形を呈し、長辺1.00m、短辺0.95m、深さ0.10mを測る。長辺方向はカマドに対して直交している。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・瓶・高坏・坏、小型粗製土器鉢 所見 6世紀第1四半期 備考 土師器甕はかなり長胴である。坏部は須恵器甕坏模倣で、やや脚の長い高坏が多い。1個体には、脚部に須恵器の透かしを意識したような線刻がある(8)。坏は内斜口縁坏、須恵器甕坏模倣の他に、内面をヘラミガキし黒色処理した坏、高坏がある。



第458図 16区16号住居カマド



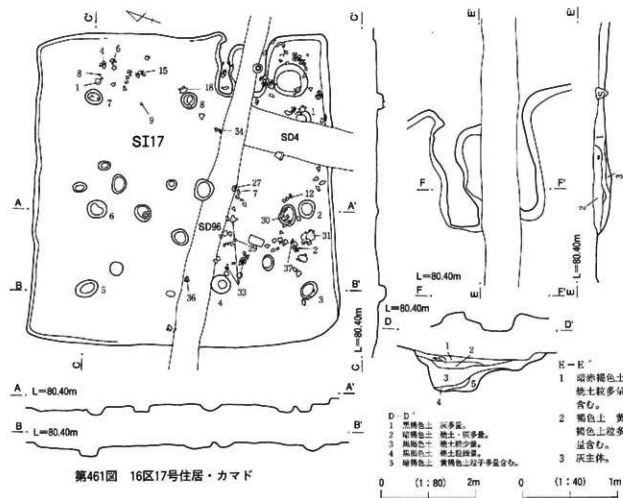
第459図 16区16号住居出土遺物-1



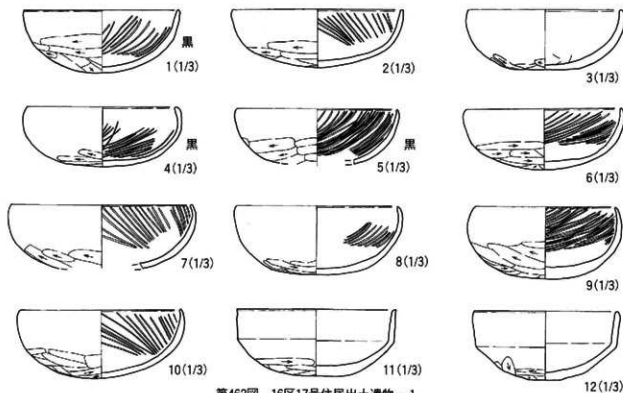
第460図 16区16号住居出土遺物-2

16区17号住居

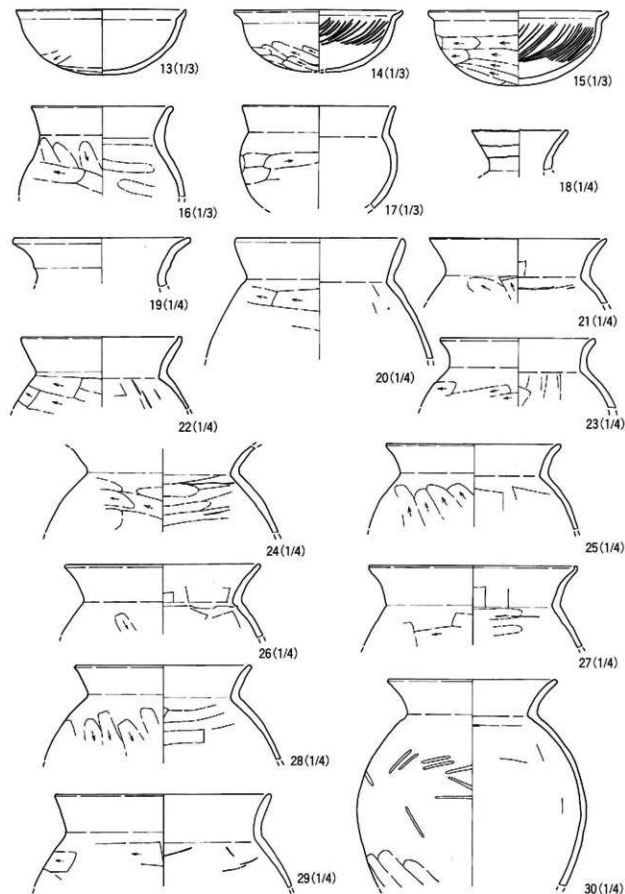
位置 16区 位置形状 長辺6.60m、短辺6.40mと正方形プランを呈する。残存壁高は0.12mである。 主軸方位 東-23°-北 重複 2号住居を掘り込み、4号・96号溝に壊される。 床面 平坦面を形成している。カマド 東壁中央やや南に位置する。96号溝に燃焼部、煙道部の大半を壊されている。奥行1.05m(推定)である。 柱穴 8基検出している。 柱穴1 長軸0.33m、短軸0.22m+a、深さ11.9m 柱穴2 長軸0.40m、短軸0.34m、深さ0.15m 柱穴3 長軸0.40m、短軸0.27m、深さ0.15m 柱穴4 径0.38m、深さ0.10m 柱穴5 長軸0.48m、短軸0.32m、深さ0.16m 柱穴6 長軸0.40m、短軸0.36m、深さ0.15m 柱穴7 長軸0.38m、短軸0.30m、深さ0.17m 柱穴8 径0.32m、深さ0.15m 貯蔵穴 南東隅に位置する。貯蔵穴の周囲は床面から0.12mほど高い。規模は、径0.70m、深さ0.25mである。 その他付属施設 なし 遺物 遺物の出土量は多く、住居南側と貯蔵穴周辺、北東部に集中し出土している。土師器甕・坏、緑色の埴瓦質岩製勾玉(36)、鉄製の刀子などがある。 所見 5世紀末 備考 土師器甕は胴部がやや球形である。坏は、やや大きな内斜口縁・内寄口縁坏のほかに、口径が小さく口縁が直立する須恵器甕模倣坏がある。



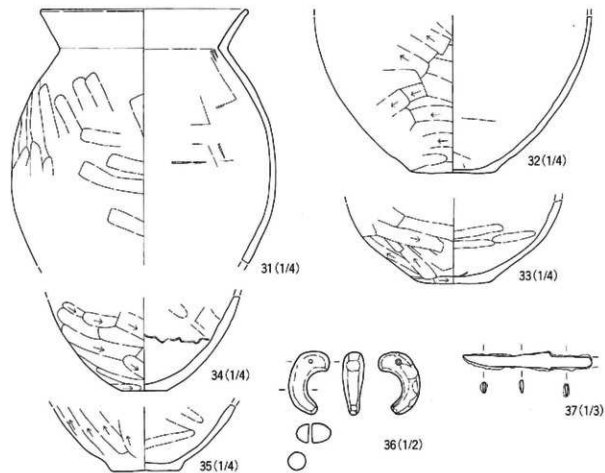
第461図 16区17号住居・カマド



第462図 16区17号住居出土遺物-1



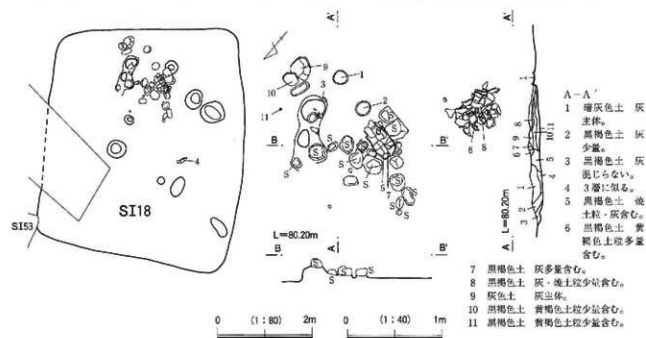
第463図 16区17号住居出土遺物-2



第464図 16区17号住居出土遺物-3

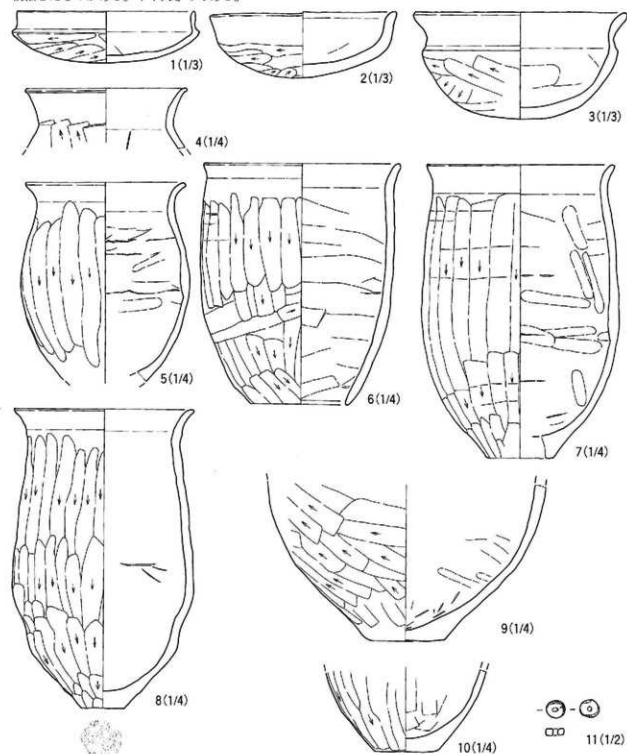
16区18号住居

位置 16区 規模形状 平面形は、長辺5.00m、短辺4.20mという長方形を呈する。残存壁高0.25mを測る。



第465図 16区18号住居・カマド

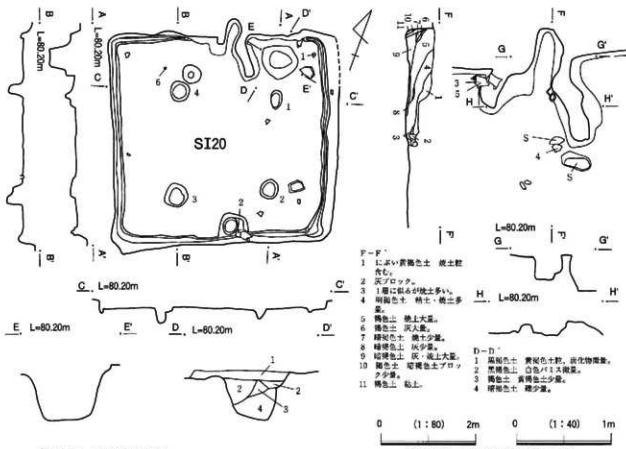
主軸方位 南-35°-東 重複 33号住居を掘り込み、53号住居に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 南壁中央部に位置する。左袖の一部が僅かに残る程度である。燃焼部内と右袖付近から砕けた凝灰岩が多数検出された。また、カマド内の位置から甕が出土した。柱穴 ビットを多数検出したが、主柱穴とは特定できない。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・瓶・鉢・坏、須恵器甕、石製模造品白玉 所見 6世紀中頃 備考 土師器甕は、長胴のものと胴部が球形のものがある。坏は須恵器坏身模倣と、甕坏を模倣したものがある。やや大きめである。



第466図 16区18号住居出土遺物

16区20号住居

位置 16区 規模形状 4.65m×4.40mと正方形プランを呈する。残存壁高0.23mを測る。主軸方位 北-26°-西 重複 52号土坑を横する。床面 平坦面を形成している。カマド 北壁中央部に位置する。左袖は殆ど残っていない。奥行1.20m、焚き口幅不明。燃焼部は一部住居壁を掘り込んでつくられている。柱穴 四隅に4基検出している。柱穴1 長軸0.40m、短軸0.24m、深さ0.24m 柱穴2 長軸0.42m、短軸0.36m、深さ0.18m 柱穴3 長軸0.48m、短軸0.46m、深さ0.33m 柱穴4 径0.42m、深さ0.32m 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.9m、深さ0.60mを測る。その他付属施設 カマド部分を除き壁周溝を検出した。幅0.10~0.20m、深さ0.10m前後である。遺物 土師器甕・鉢・杯、蛇紋岩製玉所見 6世紀中頃 備考 土師器甕はかなり長胴である。また、No.1の杯は須恵器蓋模倣で、口縁がやや外反する。口径が14.5cmとやや大きめである。

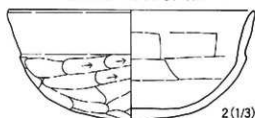


第467図 16区20号住居

第468図 16区20号住居カマド



1 (1/3)



2 (1/3)



3 (1/3)

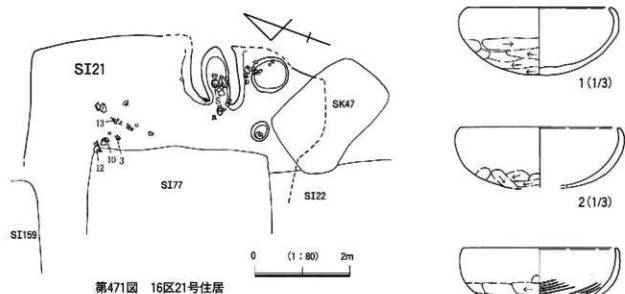
第469図 16区20号住居出土遺物-1



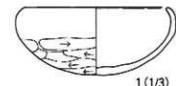
第470図 16区20号住居出土遺物-2

16区21号住居

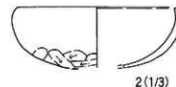
位置 16区 規模形状 重複が激しく住居の残りは悪く、形状は不明である。長辺6.00m+a、短辺2.30m+a、残存壁高0.18mを測る。主軸方位 東-19°-北 重複 76号・90号住居を掘り込む。22号・77号・159号住居、47号土坑に横される。床面 貼床が確認される。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行1.35m、焚き口幅0.40m測る。燃焼部はほぼ中央から支脚と見られる15cmほどの川原石を検出した。柱穴 不明 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.75m、深さ0.30mを測る。長軸方向はカマドに直交している。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・瓶・杯、須恵器杯 (17) は、縁は短く口縁端部はやや丸みを帯びている。天井部はやや低くヘラケズリの範囲も狭い。MT15併行期と考えられる。土師器甕はやや長胴である。杯は内斜口縁のタイプに口径17.0cm以上もある大型品 (8) があることが特徴的である。



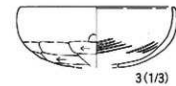
第471図 16区21号住居



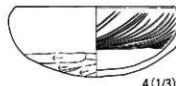
1 (1/3)



2 (1/3)

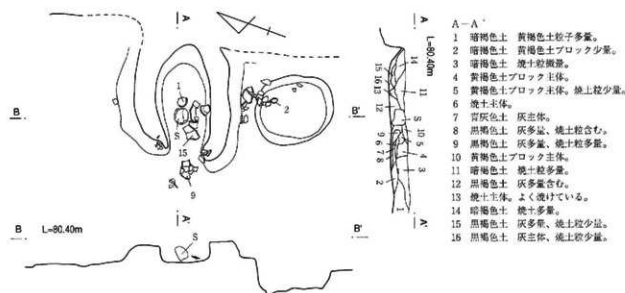


3 (1/3)

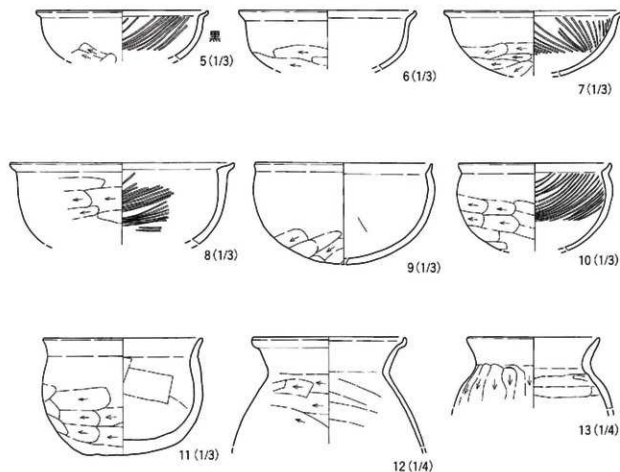


4 (1/3)

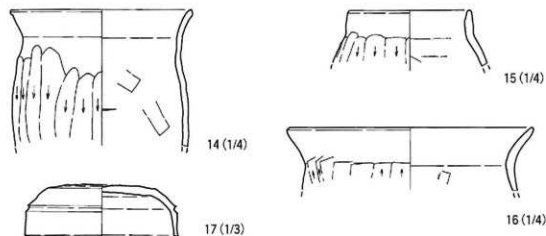
第472図 16区21号住居出土遺物-1



第473図 16区21号住居カマド



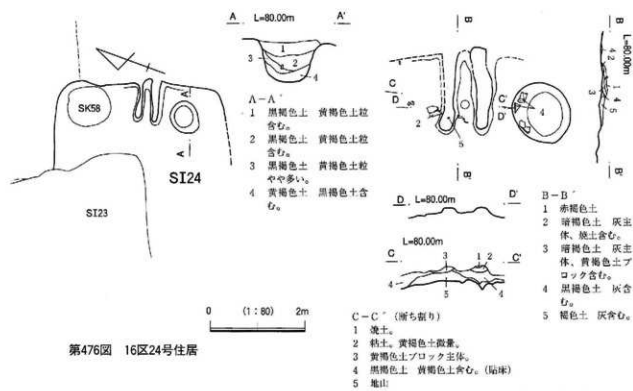
第474図 16区21号住居出土遺物-2



第475図 16区21号住居出土遺物-3

16区24号住居

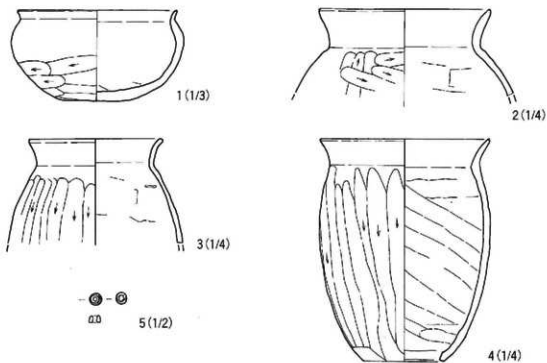
位置 16区 規模形状 住居の東半分を検出した。長辺3.60m、短辺1.50m+αを測る。方形プランと推定される。主軸方位 東-25° 北 重複 60号住居を掘り込む。23号土坑に壊される。床面 貼床が認められる。カマド 東壁中央部に位置する。左袖はかなり崩れていた。奥行0.80m（推定）、焚き口幅0.25mを測る。柱穴 不明 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.65m、短軸0.60m、深さ0.46mを測る。長軸方向はカマドに平行している。その他付属施設 なし 遺物 土師器・土師器・土師器・土師器。カマドの左袖上から石製模造品白玉が1点出土した。所見 5世紀後半 備考 土師器（1）は内斜縁環である。内面はヘラナゲされ暗文はない。底部が平底なのも特徴的である。土師器の胴部はかなり丸みをもつ。



第476図 16区24号住居

第477図 16区24号住居カマド

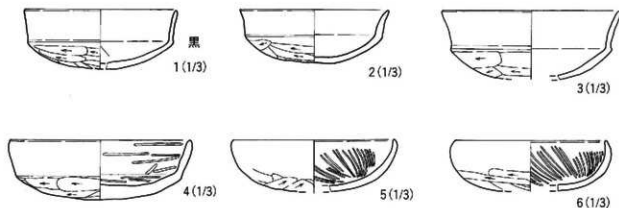




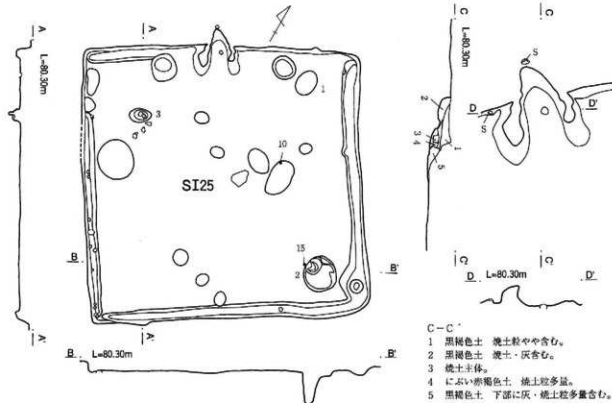
第478図 16区24号住居出土遺物

16区25号住居

位置 16区 規模形状 5.90m×5.85mと正方形プランを呈する。残存壁高は0.22mである。主軸方位 北-27° 一西 重複 12分・94号住居を掘り込む。床面 貼床が確認される。カマド 北壁ほぼ中央に位置する。右袖上面はかなり削平されていた。奥行0.90m、焚き口幅0.40mを測る。燃焼部は一部住居壁を掘り込んで造られている。燃焼部中央やや右側から、支脚とみられる川原石を検出した。柱穴 3基検出している。南西部の柱穴は確認できなかった。柱穴1 長軸0.56m、短軸0.40m、深さ0.52m 柱穴2 長軸0.36m、短軸0.30m、深さ0.69m 柱穴3 長軸0.46m、短軸0.28m、深さ0.18m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 カマドと北東コーナーを除き、壁間溝を検出した。遺物 土師器壺・甕・杯・埴・壺、須恵器杯身・甕、石製模造品例形。所見 6世紀第1四半期 備考 土師器杯は、やや大型の内湾口縁杯、須恵器蓋杯模倣の杯とともに、内面をヘラミガキし黒色処理した杯が伴っている。須恵器杯身は、たちあがりや内傾し受部はシャープである。小型で体部のヘラケズリの単位はやや広い。

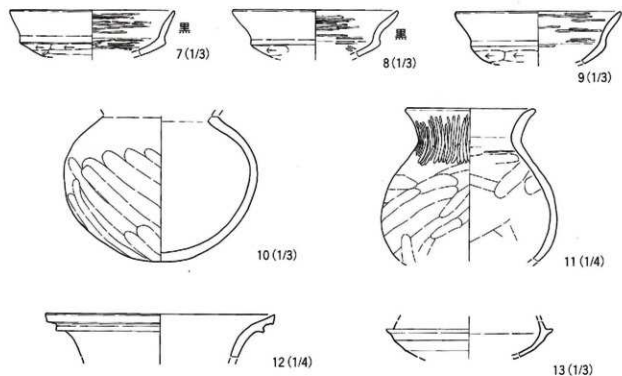


第479図 16区25号住居出土遺物-1



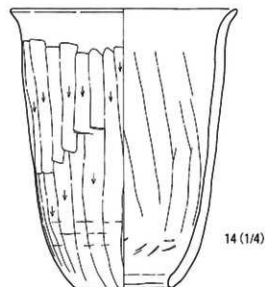
- C-C' 1 黒褐色土 焼土粒やや含む。
2 黒褐色土 焼土・灰を含む。
3 焼土主体。
4 におい赤褐色土 焼土粒多量。
5 黒褐色土 下部に灰・焼土粒多量含む。

第480図 16区25号住居

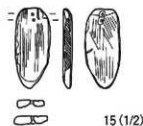


第481図 16区25号住居カマド

第482図 16区25号住居出土遺物-2

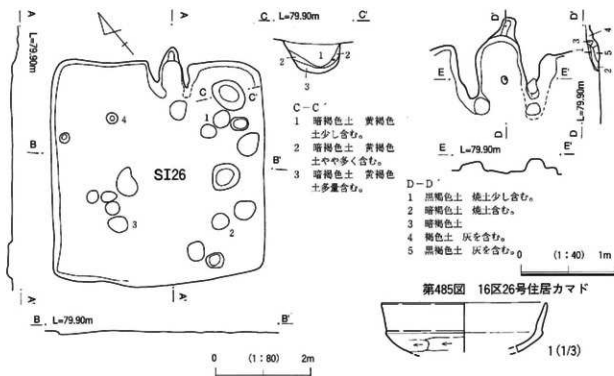


第483図 16区25号住居出土遺物-3



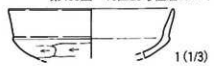
16区26号住居

位置 16区 規模形状 長辺4.70m、短辺4.40mの方形プランを呈する。残存壁高は0.19mである。主軸方位北-41°-東 重複 39号・55号住居を擁り込む。床面 貼床が確認される。カマド 北壁は中央に位置する。奥行0.85m、焚き口幅0.35m、煙道部長0.20mを測る。両軸先端部には、かたい地山土のブロック塊が据えられていた。燃焼部中央より8cm×5cmほどの窪みを検出した。支脚痕と考えられる。柱穴 4基検出されている。柱穴1 長軸0.38m、短軸0.32m、深さ0.34m 柱穴2 長軸0.34m、短軸0.32m、深さ0.20m 柱穴3 長軸0.40m、短軸0.34m、深さ0.34m 柱穴4 長軸0.24m、短軸0.22m、深さ0.32m 貯蔵穴 北東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.55m、深さ0.23mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器杯、住居南東床面から石製模造品の白玉が出土した。所見 6世紀初頭 備考 杯は、やや大形化している。



第484図 16区26号住居

第485図 16区26号住居カマド



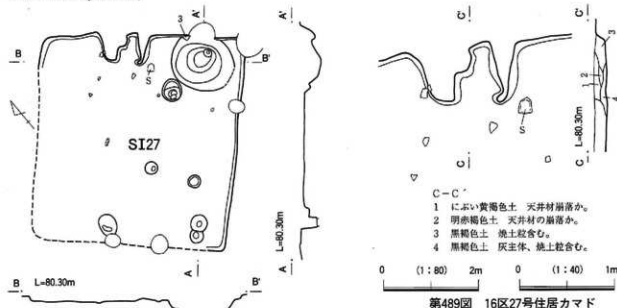
第486図 16区26号住居出土遺物-1



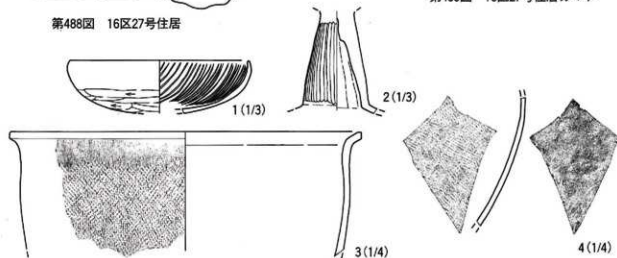
第487図 16区26号住居出土遺物-2

16区27号住居

位置 16区 規模形状 長方形を呈し、長辺4.50m、短辺4.30m、残存壁高0.12mを測る。主軸方位 東-42°-北 重複 32号住居と重複する。新旧不明。床面 貼床が確認される。カマド 東壁中央やや北側に位置する。柱は多くの部分が崩れ、残りは悪かった。奥行0.60m、焚き口幅0.40mを測る。柱穴 ビットを検出したが不規則である。貯蔵穴 楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.10m、深さ0.34mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器寛・杯・高杯、須恵器寛、朝鮮三国系軟質土器瓶 所見 5世紀後半 備考 朝鮮三国系軟質土器瓶(3)は、外面に格子叩き目が見られる。口径は36.8cm(推定)と大きく、口縁がやや外反する。土師器杯は、内湾口縁で器内が薄く内面の暗文は丁寧に描かれている。高杯は胸部の破片であるが、杯部が大きく裾部も大きく張るタイプと考えられる。なお、住居より新しいビット内から出土した磁器は龍泉窯系中国青磁である。(p363掲載)



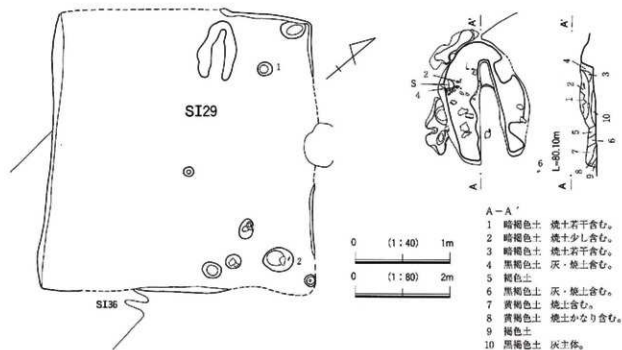
第488図 16区27号住居



第489図 16区27号住居出土遺物

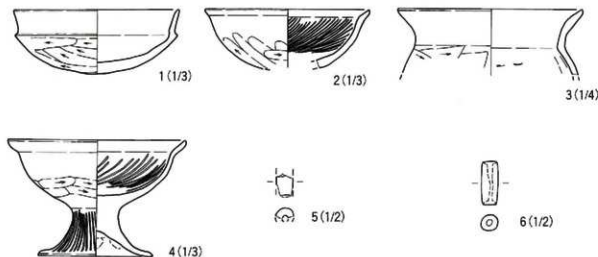
16区29号住居

位置 16区 規模形状 長辺6.00m、短辺5.60mの長方形プランを呈し、残存壁高0.08mを測る。主軸方位西-34°-北 重複 30号・36号・37号・56号住居を掘り込む。床面 ほは平坦である。貼床が確認される。カマド 西壁中央やや北側に位置する。奥行1.15m、焚き口幅0.30mを測る。柱穴 2基検出されている。柱穴1 径0.30m、深さ0.08m 柱穴2 長軸0.60m、短軸0.50m、深さ0.53m。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏、埴輪質岩製管玉(5)、蛇紋岩製管玉(6) 所見 5世紀末 備考 土師器高坏の内斜口縁のタイプは、口径がやや小さい。また、須恵器壺の蓋模倣は、底部が丸い。管玉(6)は、カマド手前で出土した。



第491図 16区29号住居

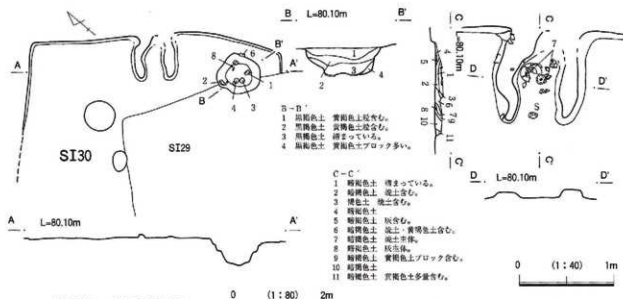
第492図 16区29号住居カマド



第493図 16区29号住居出土遺物

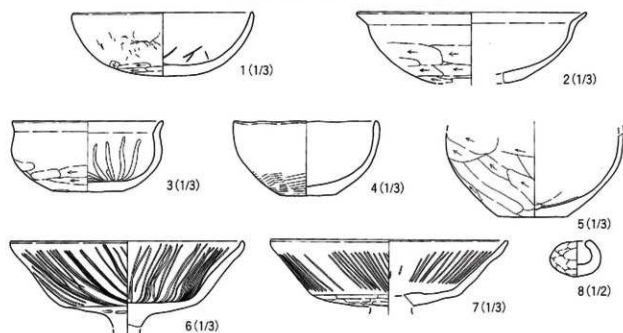
16区30号住居

位置 16区 規模形状 重複が激しく住居の残りは悪いが、方形プランと推定される。長辺5.30m、短辺1.90m + a、残存壁高0.04mを測る。主軸方位 東-33°-北 重複 56号住居を掘り込み、29号住居に壊される。床面 平坦面を形成し貼床が確認される。カマド 東壁は中央部に位置する。残りが悪く、袖部分はほとんど崩れていた。燃焼部内から川原石、燃焼部奥から土師器高坏片と大量の土師器高坏片が出土した。土師器高坏は支脚として使われていた可能性がある。柱穴 不明 貯蔵穴 楕円形を呈し、長軸0.90m、短軸0.80m、深さ0.46mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏・碗・手捏土器 所見 5世紀後半 備考 土師器高坏は、坏部のみ残存していたが、全体では脚器も大型で、全面暗文のあるタイプである。内湾口縁の坏は、底部の一部にヘラケズリをし、内面はヘラナデで暗文がみられない。内斜口縁の坏(3)は、平底で口縁の屈曲が強く、また内面の暗文がかなり太い。



第494図 16区30号住居

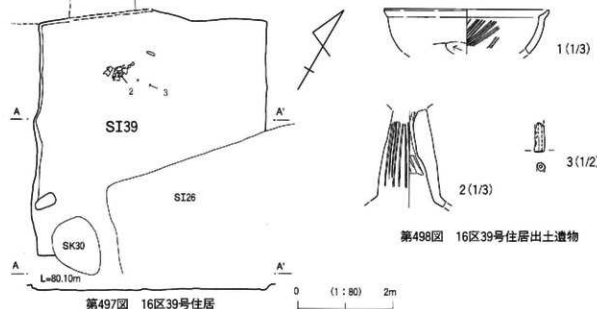
第495図 16区30号住居カマド



第496図 16区30号住居出土遺物

16区39号住居

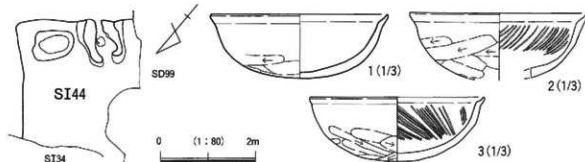
位置 16区 規模形状 1辺4.90mの正方形プランと推定される。残存壁高0.18mである。主軸方位 北-33°-西 重複 40号住居、9区東の198号を掘り込む。26号住居、30号土坑に壊される。99号溝が埋まった後に造られている。床面 黄褐色土粒の混じった黒褐色土で貼床としている。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器杯・高杯、蛇紋岩製管玉 所見 5世紀後半 備考 遺物の少ない住居跡である。杯と高杯が図化できた。



第498図 16区39号住居出土遺物

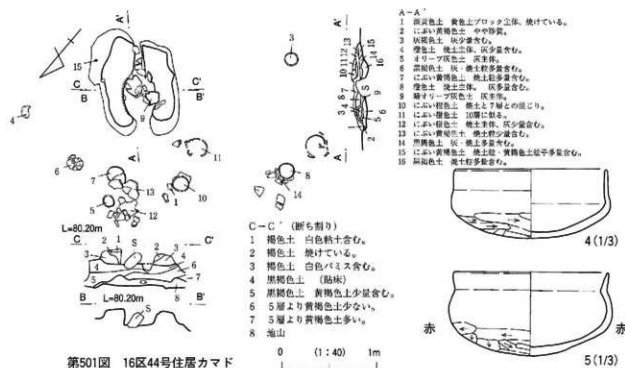
16区44号住居

位置 16区 規模形状 長辺3.00m+a、短辺2.50m+a、方形プランと推定される。残存壁高0.15mを測る。主軸方位 南-37°-東 重複 46号住居を掘り込む。34号・35号住居に壊される。99号溝が埋まった後に造られている。床面 黄褐色土粒の混じった黒褐色土で貼床としている。カマド 南壁中央やや東に位置する。奥行0.70m、焚き口幅0.25m、煙道部0.35mを測る。燃焼部左奥で、支脚と見られる20cmほどの埋められた川原石を検出した。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅に位置する。長方形プランを呈し、長辺0.90m、短辺0.70m、深さ0.30mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・瓶・杯・高杯、須恵器樽型ハソウ、須恵器ハソウ 所見 5世紀末 備考 須恵器ハソウ(7)は胴部がやや太く、口縁も比較的大まい。TK47併行期に、なお樽型ハソウ(15)は、TK208段階と考えられる。ハソウは2個体とも意図的に口縁が割られている。土師器では、瓶が特徴的である。やや胴部が長いものの胴部に張りがあり丸みをもつ。瓶の胴下半部のラインも要に近い。これらは古手の根相である。それに対し高杯は内斜口縁杯に脚がついた形態である。

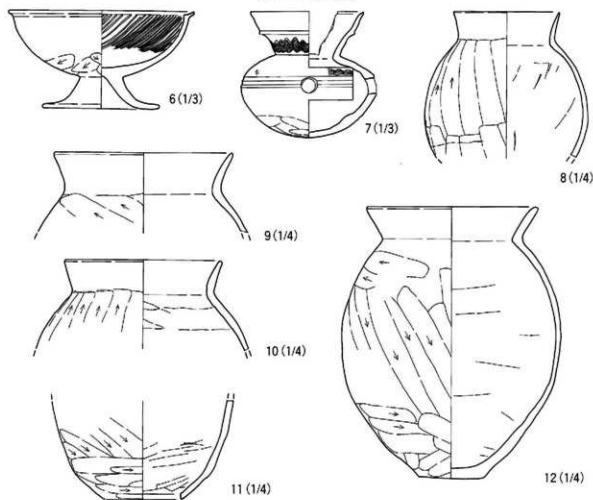


第499図 16区44号住居

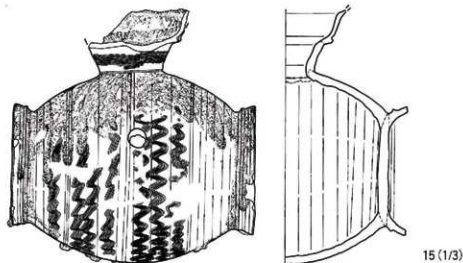
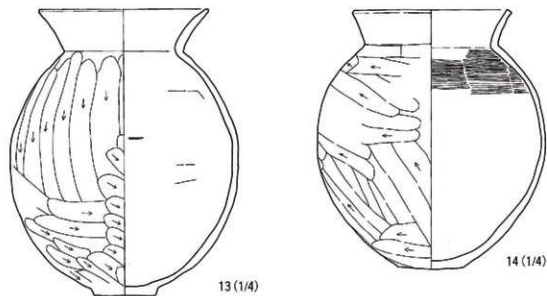
第500図 16区44号住居出土遺物-1



第501図 16区44号住居カマド



第502図 16区44号住居出土遺物-2

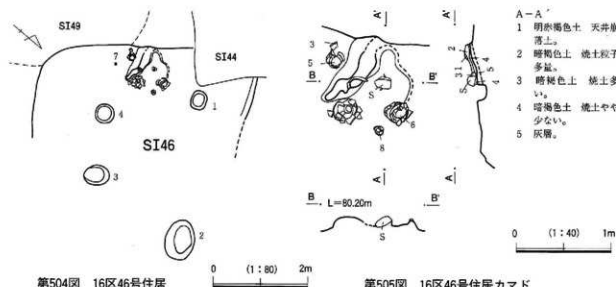


第503図 16区44号住居出土遺物-3

16区46号住居

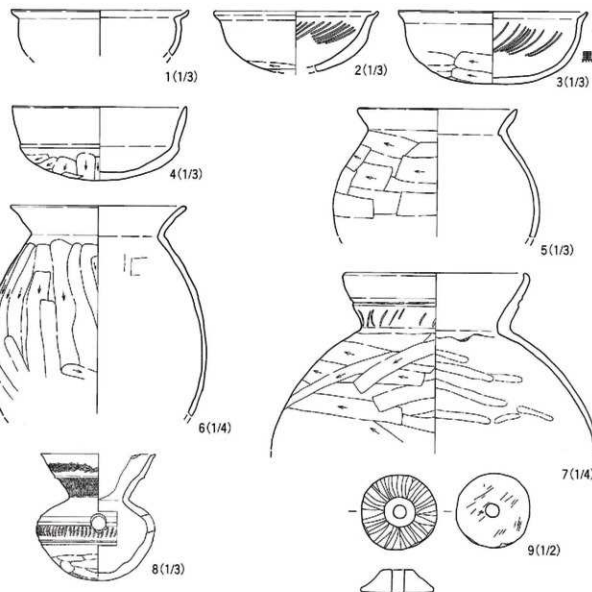
位置 16区 規模形状 重複が激しく、不明な部分が多い。長さ4.70m、短辺1.00m+α、残存壁高0.12mを測る。 主軸方位 西-43° -南 重複 49号住居を掘り込み、44号住居に壊される。 床面 黄褐色土ブロックの混じった黒褐色土で貼床としている。 カマド 西壁は中央に位置する。カマドは崩れ右軸はほとんど残っていない。規模は不明である。燃焼部内はよく焼けていて、灰、焼土粒が残っていた。燃焼部中央から支脚と見られる川原石を検出した。 柱穴 4基検出されている。 柱穴1 長軸0.36m、短軸0.34m、深さ0.19m 柱穴2 長軸0.82m、短軸0.60m、深さ0.13m 柱穴3 長軸0.50m、短軸0.42m、深さ0.12m 柱穴4 長軸0.40m、短軸0.38m、深さ0.39m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・壺・杯、須恵器ハソウ、石製紡錘車 所見 土師器甕はやや長胴化の兆しは見えるが、全体的には丸みをもつ。土師器杯は須恵器甕杯の藍模様のものも混じり、大型品があることが特徴である。須恵器ハソウは、頸部が太く口径も大きめの特徴を持ちTK47併行期と考えられる。なお、ハソウの口縁は意図的に削られている。

第1節 貯穴住居



第504図 16区46号住居

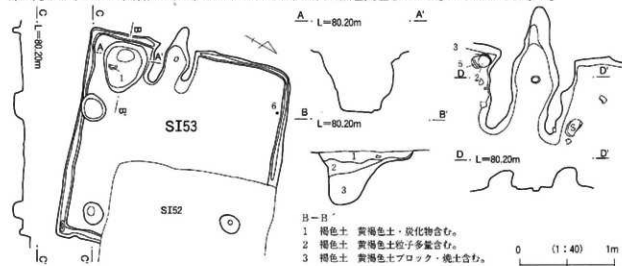
第505図 16区46号住居カマド



第506図 16区46号住居出土遺物

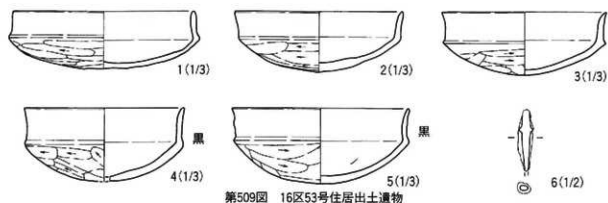
16区53号住居

位置 16区 規模形状 一辺4.40mの正方形プランを呈する。残存壁高0.26mを測る。主軸方位 西-18°-南 重複 52号住居に壊される。床面 はほぼ平坦で中央付近がやや高い。カマド 西壁中央やや南に位置する。奥行1.10m、焚き口幅0.35m、煙道部長0.48mを測る。燃焼部中央やや奥から直径8cm程度の窪みが検出された。支脚痕と考えられる。柱穴 北西を除いて支柱穴が検出されている。貯蔵穴 南西隅に位置する。楕円形を呈し、長軸1.08m、短軸0.96m、深さ0.64mを測る。その他付属施設 カマドを除く部分で壁周溝が検出された。幅0.10~0.20m、深さ0.05~0.10mである。遺物 土師器甕・坏が出土した。住居北東部壁際から鉄製鐵が出土した。所見 6世紀前半 備考 土師器坏は須恵器蓋環の蓋模倣で、口径が大きく口縁が直立、底部に丸みをもつという特徴がある。No 4、5の坏は、内面を黒色処理している。ヘラミガキはない。



第507図 16区53号住居

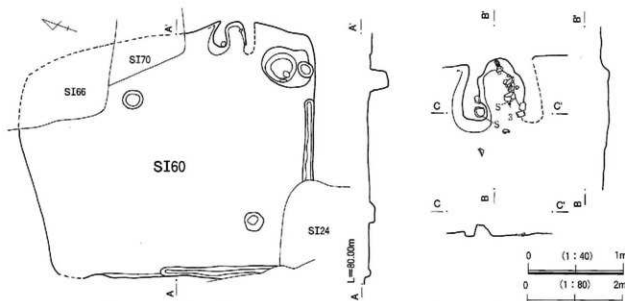
第508図 16区53号住居カマド



16区60号住居

位置 16区 規模形状 長辺16.10m、短辺5.20m、やや形の歪んだ長方形プランを呈する。残存壁高0.12mを測る。主軸方位 東-20°-北 重複 98号住居を掘り込む。23号・66号・70号住居に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行0.80m、焚き口幅0.35mを測る。左袖先端から袖石を検出した。柱穴 2基検出されている。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸1.16m、短軸0.80m、深さ0.45mを測る。その他付属施設 壁周溝が南・西壁で検出されている。幅0.10m前後、深さ0.05m前後である。遺物 土師器甕・坏、石製模造品白玉 所見 6世紀初頭 備考 土師器坏は内斜口縁坏がある。やや小型なのが特徴である。白玉は小型でカマド内の出土である。

第1節 堅穴住居



第510図 16区60号住居

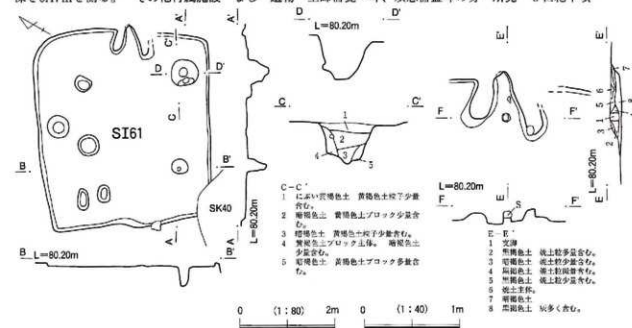
第511図 16区60号住居カマド



第512図 16区60号住居出土遺物

16区61号住居

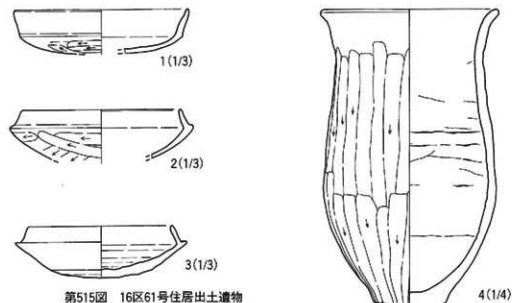
位置 16区 規模形状 長辺4.20m、短辺3.60mの長方形プランで、残存壁高0.12mである。主軸方位 東-29°-北 重複 78号住居を掘り込む。40号土坑に壊される。床面 緩やかな凹凸があるがほぼ平ら。カマド 東壁中央やや南より位置する。奥行0.65m、焚き口幅0.45m、燃焼部中央で円形の川原石を検出した。支脚と考えられる。柱穴 6基が検出されている。貯蔵穴 南東隅に位置する。円形プランで、径0.60m、深さ0.47mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏、須恵器蓋環の身 所見 6世紀中頃



第513図 16区61号住居

第514図 16区61号住居カマド

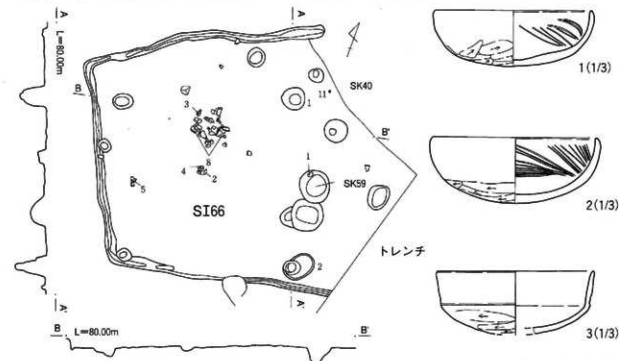
備考 須恵器甕坏の身(3)は、たちあがりがかかなり内傾し、やや小ぶりである。また、底部の回転ヘラケズリの範囲は狭い。土師器甕は、長胴化しやや下膨れである。土師器坏は、須恵器甕坏の甕と身の両方の模様のタイプがあるが、両者ともやや大型である。



第515図 16区61号住居出土遺物

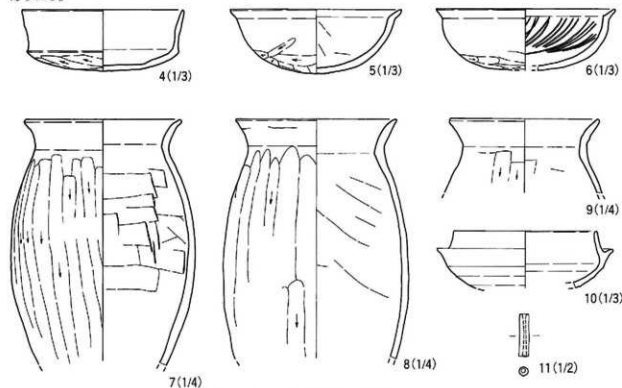
16区66号住居

位置 16区 規模形状 南北5.6m + α、東部分は不明。残存壁高0.16mを測る。方形プランと推定される。主軸方位 東-18° -北 重機 65号・68号・70号・71号・97号住居を掘り込む。40号土坑に壊される。床面は平坦である。カマド 不明。土坑に壊されている可能性が高い。柱穴 2基検出されている。柱穴1 長軸0.50m、短軸0.48m、深さ0.53m 柱穴2 長軸0.66m、短軸0.46m、深さ0.63m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 南壁の一部を除き、壁際に壁周溝が検出されている。幅0.10m前後、深さ0.05m前後である。遺物 土師器甕・坏、蛇紋岩製管玉、須恵器甕坏身 所見 6世紀初頭 備考 土師器の素は、やや長胴である。



第516図 16区66号住居出土遺物-1

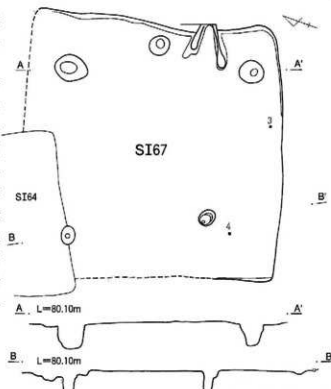
坏は内湾口縁と内斜口縁のほかに、口縁の直立する須恵器甕坏の蓋模倣がある。須恵器(甕坏身)(10)は小ぶりで、たちあがりはわずかながら内傾している。たちあがり端部や受部端部には丸みをもつ。TK47併行期と考えられる。



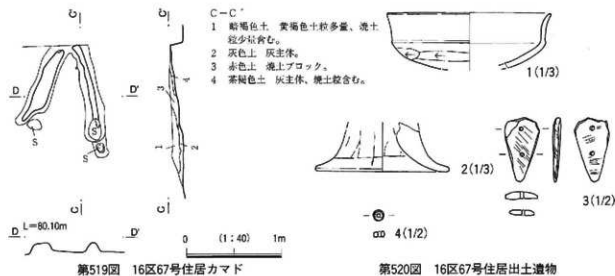
第517図 16区66号住居出土遺物-2

16区67号住居

位置 16区 規模形状 南北5.40m、東西5.5m (推定)の正方形プランと考えられる。残存壁高0.26mを測る。主軸方位 東-16° -北 重機 68号・79号・81号・83号・89号住居を掘り込む。64号住居に壊される。床面 黒褐色土ブロックの混じった黄褐色土で貼床としている。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行1.15m、焚き口幅0.55mを測る。右袖先端部には川原石が2点埋められていた。左袖先端部に石はなかったが、袖石が埋められた痕跡があった。柱穴 住居内部を開くように5基検出されている。貯蔵穴 直径56cm、深さ約32cm。その他付属施設 なし 遺物 土師器坏・高坏、石製模造品剣形・白玉 所見 5世紀末 備考 住居北側床面の広範囲から大量の灰・炭化材が検出されている。焼失家屋の可能性が高い。

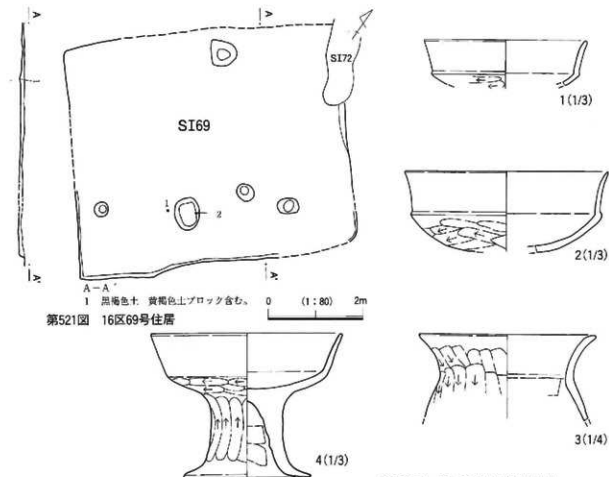


第518図 16区67号住居



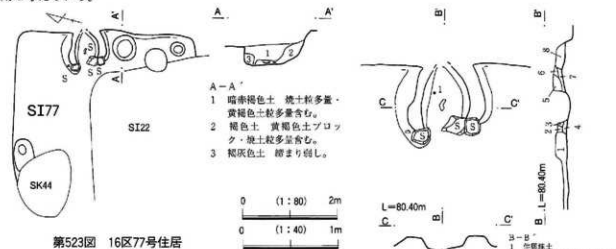
16区69号住居

位置 16区 規模形状 東西6.00m、南北短辺5.00mの長方形を呈する。残存壁高0.08mを測る。主軸方位 東-39°-北 重複 72号住居に壊される。床面 黄褐色土粒の混じった黒褐色土で、貼床としている。カマド 不明 柱穴 ビットが5基検出されている。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器・高環・須恵器蓋 所見 6世紀第1四半期 備考 土師器は須恵器蓋模倣で、口径が16.0cm (2) という大製品もある。高環は脚が筒状でやや長い。



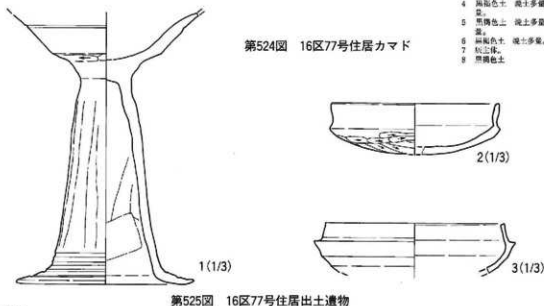
16区77号住居

位置 16区 規模形状 南北3.60m、東西3.20m+α、方形を呈すると推定される。残存壁高0.10mを測る。主軸方位 東-15°-北 重複 22号住居に壊される。床面 黄褐色土粒の混じった黒褐色土で貼床としている。カマド 東壁中央部よりやや北側に位置する。奥行0.80m、焚き口幅0.35mを測る。袖石は凝灰岩で、据えられた状態であった。焚き口付近に崩落した凝灰岩が発見された。天井石と考えられる。燃焼部中央に川原石が埋められていた。支脚の可能性が高い。柱穴 不明 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸1.00m、短軸0.80m、深さ0.11mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器・高環・須恵器蓋 所見 6世紀第2四半期 備考 土師器は、須恵器蓋身の模倣で、比較的口径が立ち気味である。高環は脚部が長く、また裾もラッパ形に開く。須恵器蓋身(身)は大ぶりて全体にシャープな印象を受ける。TK10併行期と考えられる。

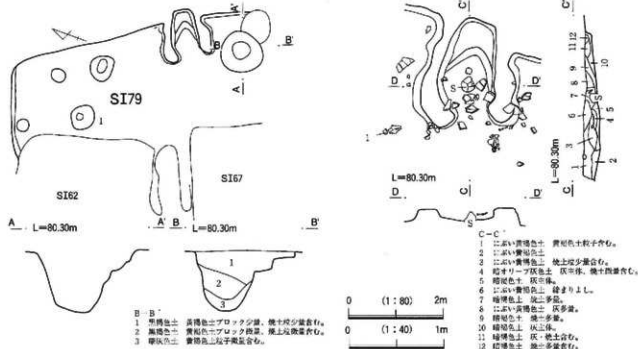


16区79号住居

位置 16区 規模形状 南北5.20m+α、東西2.00m+α、方形プランと推定される。残存壁高0.16mを測る。主軸方位 東-25°-北 重複 89号住居を掘り込む。62号・67号・83号住居に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 東壁中央部よりやや南側に位置する。奥行1.10m、焚き口の幅0.50mを測る。燃焼部は、住居床面よりも僅かに低く掘り窪められていた。燃焼部中央からは、支脚と見られる細長い川原石を検出している。



柱穴 1基検出している。柱穴1 長軸0.54m、短軸0.50m、深さ0.58m 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.90m、短軸0.80、深さ0.64mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏、石製模造品白玉 所見 6世紀初頭 備考 遺物が少ない住居である。内湾口縁と内斜口縁の土師器を図化した。

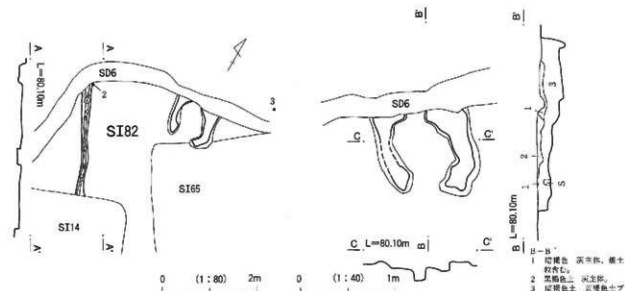


第526図 16区79号住居

第527図 16区79号住居カマド



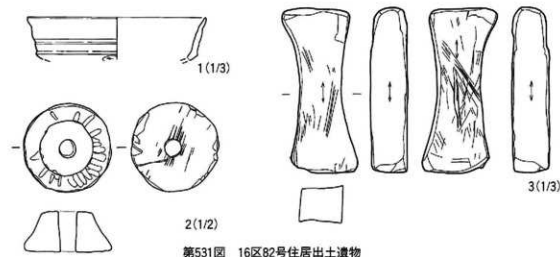
位置 16区 規模形状 長辺2.60m + a、短辺1.80m + a、方形プランと推定される。残存壁高0.10mを測る。主軸方位 北-20° -西 重複 14号・65号住居、6号溝に壊される。床面 ほぼ平坦で、貼床が確認される。



第529図 16区82号住居跡

第530図 16区82号住居カマド

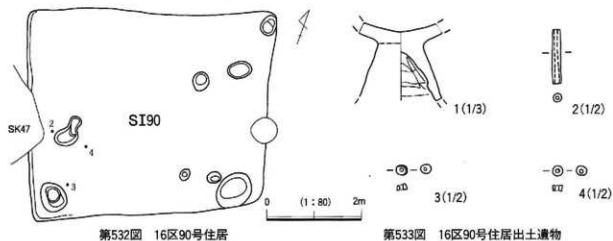
カマド 北壁に位置する。奥行0.80m、焚き口幅0.35mを測る。袖はよく焼け、燃焼面は床面とはほぼ同レベルであった。柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 カマドを除く部分に壁面溝を検出した。幅0.10~0.14m、深さ0.05~0.15mである。周溝内から小ピットを多数検出した。遺物 土師器甕・坏、石製紡錘車、砥石(紙沢石) 所見 6世紀後半



第531図 16区82号住居出土遺物

16区90号住居

位置 16区 規模形状 長辺5.40m、短辺4.40mの長方形プランを呈する。残存壁高0.12mを測る。主軸方位 東-39° -北 重複 76号住居を掘り込み、47号土坑に壊される。床面 部分的に黄褐色土で貼床としている。カマド 不明 柱穴 いくつかのピットがあるが配置は不明。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・高坏、石製模造品白玉、蛇紋岩製管玉(2) 所見 5世紀末

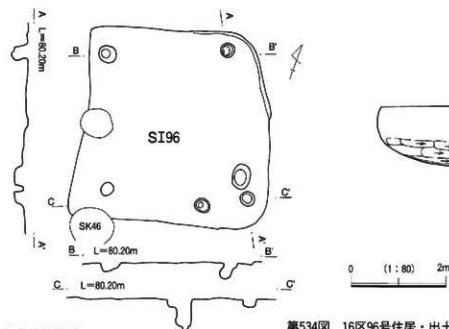


第532図 16区90号住居

第533図 16区90号住居出土遺物

16区96号住居

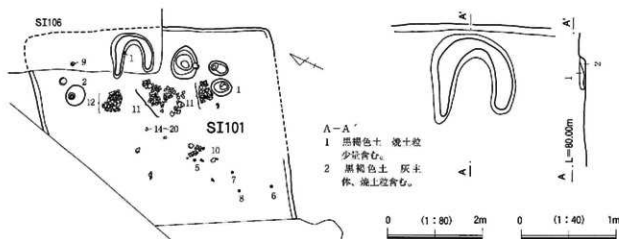
位置 16区 規模形状 東西4.15南北4.15mの台形プランを呈する。残存壁高は0.06mである。主軸方位 北-32° -西 重複 11区159号・240号住居を壊す。床面 やや凹凸がある。カマド 不明 柱穴 いくつかのピットがあるが、配置は不明確。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏 所見 5世紀後半 備考 遺物が少ない。図化した土師器内湾口縁の坏は、全体的に肉厚である。



第534図 16区96号住居・出土遺物

16区101号住居

位置 16区 規模形状 長辺5.20m±、短辺4.00m±、方形プランと推定される。残存壁高0.20mを測る。主軸方位 東-30°-北 重複 106号・107号・109号住居に壊される。床面 黄褐色土ブロック含む黒褐色土で部分的に貼床としている。カマド 東壁中央やや北側に位置する。カマド上部は大部分削平され、袖の高まりが僅かしか残っていない。カマドの奥行0.70m、焚き口幅0.48mを測る。燃焼面は床面とはほぼ同レベルであった。柱穴 2基検出している。柱穴1の東側からピットを1基検出した。支柱穴の可能性が考えられる。柱穴1 長軸0.40m、短軸0.32m、深さ0.34m 柱穴2 長軸0.40m、短軸0.38m、深さ0.62m 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.55m、深さ0.42m。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・高杯・甗、石製模造品白玉、鉄鏝、鉄洋 所見 6世紀第1四半期 備考 土師器壺はかなり長胴である。壺は須恵器蓋の模倣で口径の大きなものもある(5)。須恵器甗(身)の模倣土師器杯(1)が1点ある。



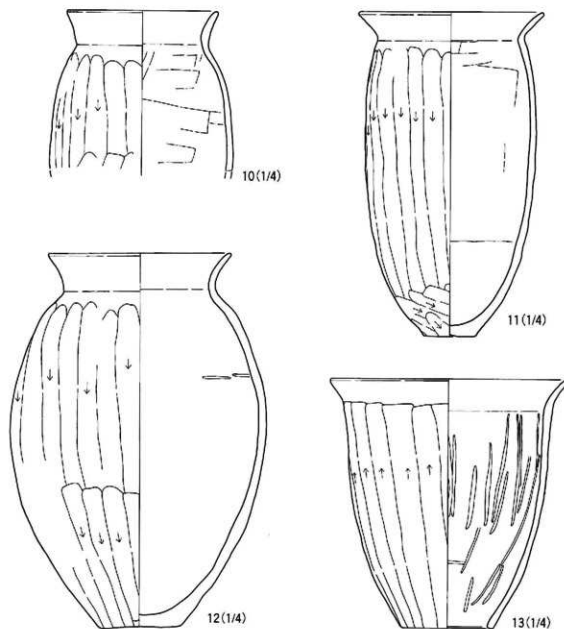
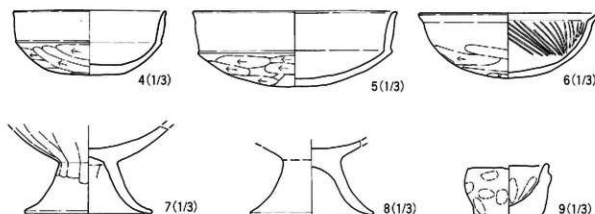
第535図 16区101号住居

第536図 16区101号住居カマド

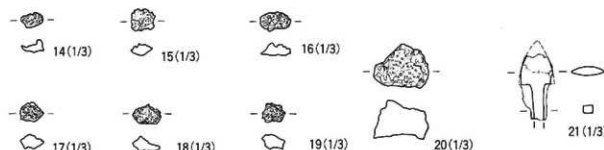


第537図 16区101号住居出土遺物-1

第1節 竈穴住居



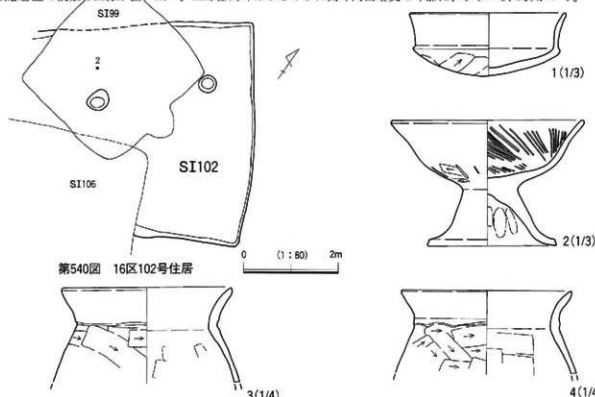
第538図 16区101号住居出土遺物-2



第539図 16区101号住居出土遺物-3

16区102号住居

位置 16区 規模形状 長辺4.90m+α、短辺4.60m、長方形プランと推定される。残存壁高0.20mを測る。主軸方位 東-34°-北 重複 99号・106号住居に壊される。床面 平坦面を形成している。カマド 不明 柱穴 2基検出しているが、東側の列がない。貯蔵穴 不明 その他付属施設 遺物 土師器壺・坏・高坏 所見 6世紀初頭 備考 土師器壺は、やや長胴形の兆しを見せるが、まだ胴部に丸みがある。土師器坏は、須恵器差の模倣で口縁が直に立つ。土師器高坏はゆるやかに開く内面暗文の坏部に、ラッパ状の脚がつく。



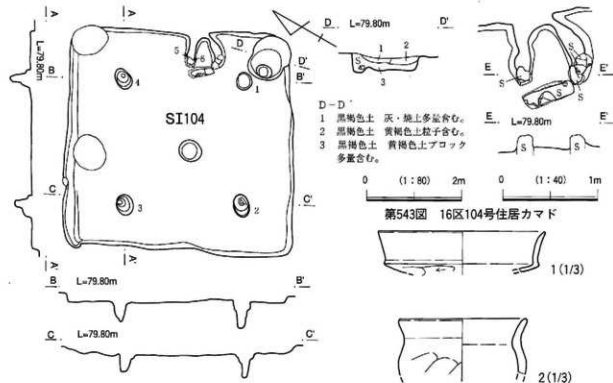
第540図 16区102号住居

第541図 16区102号住居出土遺物

16区104号住居

位置 16区 規模形状 長辺4.80m、短辺4.70mと、ほぼ正方形プランを呈する。残存壁高0.16mを測る。主軸方位 東-25°-北 重複 132・173号住居を掘り込む。床面 黄褐色土ブロック含む黒褐色土で、部分的に貼床としている。カマド 東壁中央部やや南に位置する。奥行0.55m、焚き口幅0.40mを測る。両袖先端部には袖石がある。天井石は凝灰岩の切石で焚き口前に落ちていた。柱穴 4基検出している。柱穴1 長軸0.40m、短軸0.30m、深さ0.61m 柱穴2 長軸0.46m、短軸0.30m、深さ0.50m 柱穴3 長軸0.34m、短軸0.30m、深さ0.37m 柱穴4 長軸0.44m、短軸0.30m、深さ0.42m 貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形プランを呈し、長軸1.00m、短軸0.80m、深さ0.48mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏 土師器壺は、須恵器差模倣である。やや口径が大きい。

第1節 堅穴住居



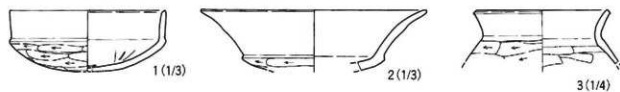
第542図 16区104号住居



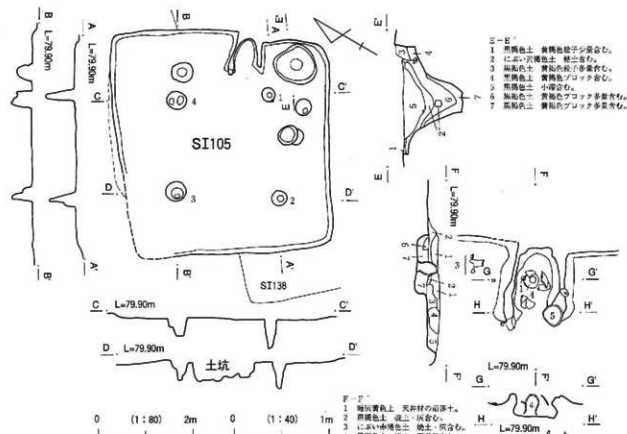
第544図 16区104号住居出土遺物

16区105号住居

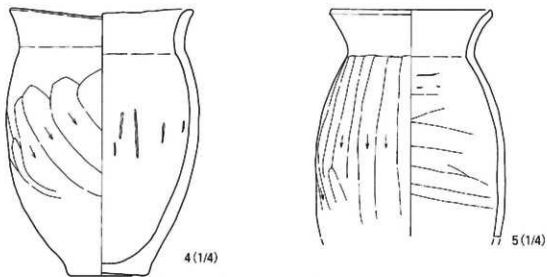
位置 16区 規模形状 長辺4.80m、短辺4.70m、と正方形プランを呈する。残存壁高0.10mを測る。主軸方位 東-25°-北 重複 138・140号住居を掘り込む。床面 ほぼ平坦で貼床が認められる。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行0.85m、焚き口幅0.38mを測る。右袖先端は土師器差が伏せられ補強してあった。また、左袖には川原石が袖石として置かれていた。燃焼部中央やや左奥には、土師器の壺が口縁を下にした状態で置かれていた。支脚にされたと考えられる。柱穴 4基検出している。柱穴1 径0.28m、深さ0.62m 柱穴2 径0.32m、深さ0.55m 柱穴3 径0.40m、深さ0.42m 柱穴4 長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.38m 貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸1.00m、短軸0.80m、深さ0.64mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏 所見 6世紀前半 備考 土師器差はかなり長胴である。土師器高坏は、坏部が残るのみであるが、脚部はラッパ形の大きなものと推定される。



第545図 16区105号住居出土遺物-1



第546図 16区105号住居・カマド

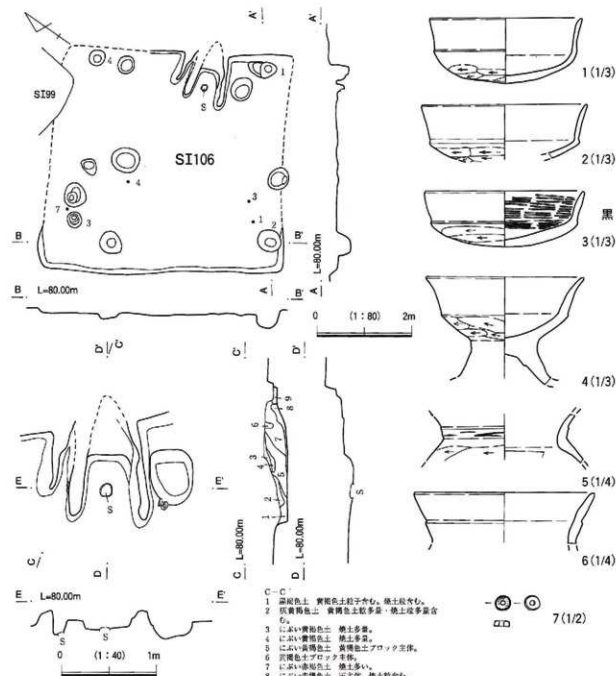


第547図 16区105号住居出土遺物-2

16区106号住居

位置 16区 規模形状 方形プラン。東西4.40m、短辺5.2m、残存壁高は0.10m。主軸方位 東-29°-北 重複 102号住居を掘り込む。床面 ほぼ平坦である。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行1.40m、焚き口幅0.55mを測る。カマド左には造り替え以前の軸がある。燃焼部中央から支脚とみられる川原石を検出した。柱穴 4基検出している。柱穴1 長軸0.60m、短軸0.30m、深さ0.39m 柱穴2 長軸0.50m、短軸0.48m、深さ0.29m 柱穴3 長軸0.36m、短軸0.30m、深さ0.36m 柱穴4 径0.32m、深さ0.28m

貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.50m、短軸0.48m、深さ0.21mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・高坏、石製模造品白玉 所見 6世紀第1四半期 備考 土師器には内面にヘラミガキして、黒色処理した個体がある。

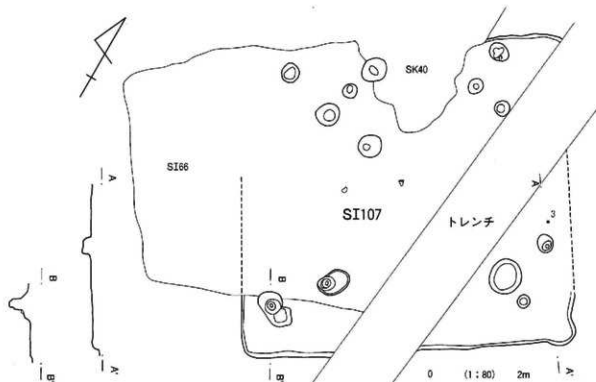


第548図 16区106号住居・カマド

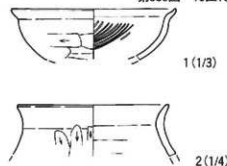
第549図 16区106号住居出土遺物

16区107号住居

位置 16区 規模形状 東西8.7m南北8.1mと方形プランを呈する。主軸方位 東-30°-北 重複 70号住居を掘り込む。66号住居に壊される。床面 ほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 四隅に主柱穴がある。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏、石製模造品銀形(黒色頁岩製) 所見 5世紀末



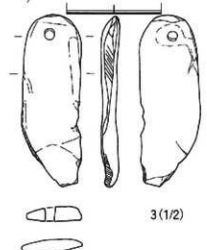
第550図 16区107号住居



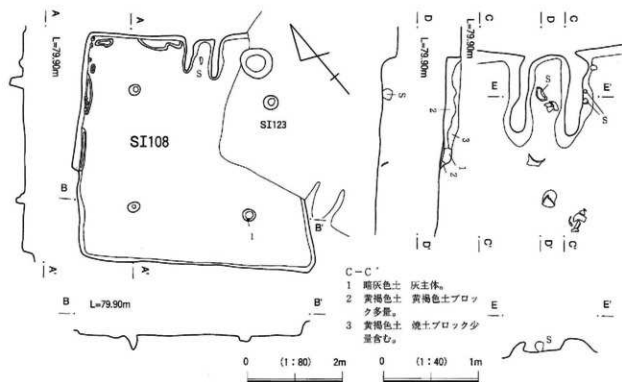
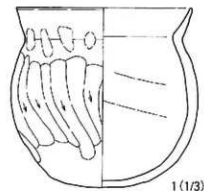
第551図 16区107号住居出土遺物

16区108号住居

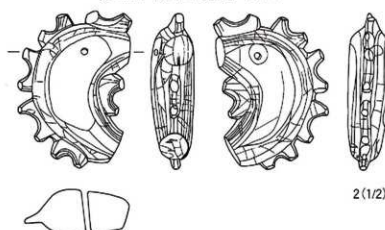
位置 16区 規模形状 1辺4.90mの正方形プランである。残存壁高0.14mを測る。主軸方位 北-40°-東 重複 135号・138号住居を掘り込む。123号住居に壊される。床面 ほぼ平坦である。カマド 北壁はほぼ中央に位置する。奥行1.00m、焚き口幅0.45mを測る。燃焼部中央やや左で、支脚と考えられる川原石を検出した。柱穴 西隅で主柱穴を4基検出している。貯蔵穴 カマド右脇に位置する。円形を呈し、径0.70m、深さ0.49mを測る。その他付属施設 西壁で部分的に壁周溝を検出した。遺物 土師器壺、石製子持勾玉 所見 5世紀末 備考 蛇紋岩製の子持勾玉(2)は住居南東の覆土中から出土した。背面の小勾玉が、3カ所意図的に打ち欠かれている。



第552図 16区108号住居出土遺物-1



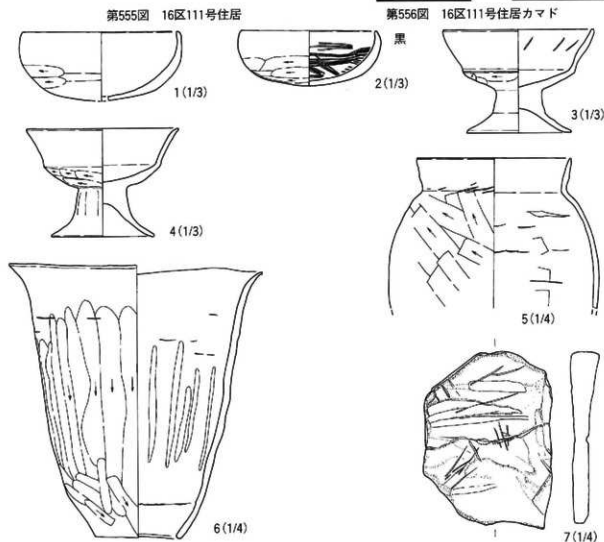
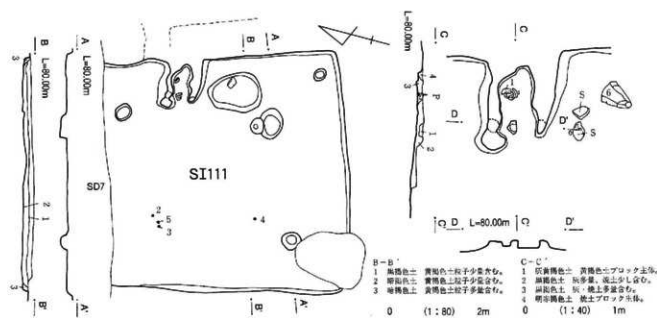
第553図 16区108号住居・カマド



第554図 16区108号住居出土遺物-2

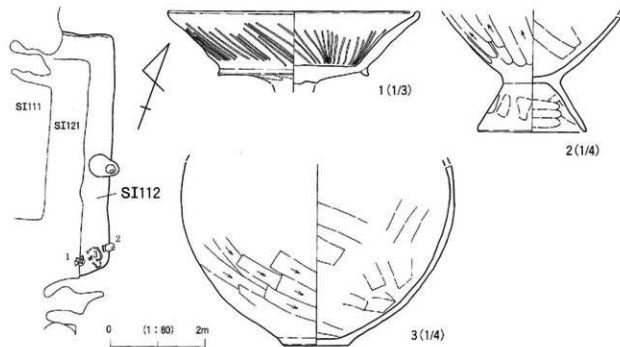
16区111号住居

位置 16区 規模形状 長辺5.12m、短辺5.00m+α、長方形プランと推定される。残存壁高0.20mを測る。主軸方位 東-4°-北 重複 112号・121号住居を掘り込む。7号溝に壊される。床面 ほぼ平坦である。カマド 東壁中央やや北に位置する。奥行0.75m、焚き口幅0.40mを測る。袖先端の袖石は据えられた状態であったが、左袖は粘土が前の方に崩れていた。燃焼部手前やや左で粘土塊が確認された。支脚と考えられる。カマドの右の位置では伏せられた状態の土師器の甕が出土した。柱穴 住居東側では、北東と南東の位置に柱穴がある。また、住居西では、南西と中央の位置に柱穴がある。貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸1.10m、短軸0.90m、深さ0.30mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・甕・杯・高杯、砥石 所見 6世紀初頭 備考 土師器の甕はかなり大型化している。杯は内湾口縁のものがある。内面に黒色処理を施している。高杯は、須恵器蓋模倣の杯に小さな脚がつく。



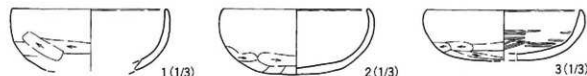
16区112号住居

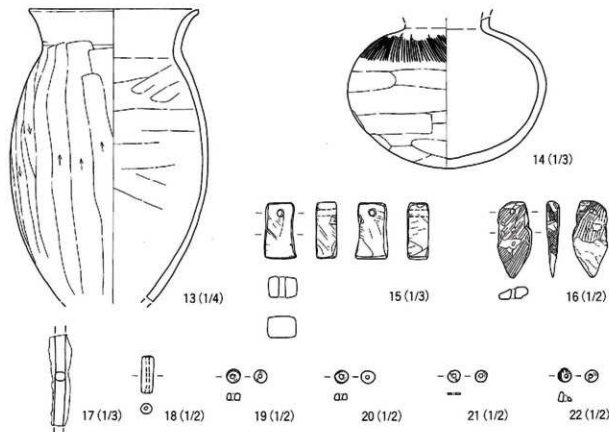
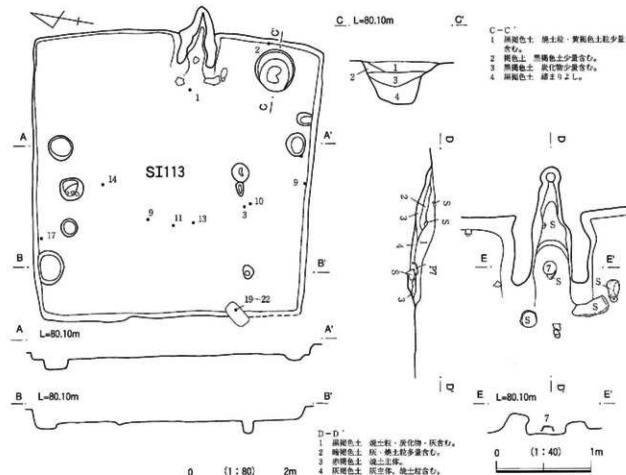
位置 16区 規模形状 他の遺構に壊され、東壁が残るのみであった。長さ4.90m、短辺1.10m + a、残存壁高0.06mを測る。方形プランと推定される。主軸方位 北-14° 西 重複 111号・121号住居に壊される。93号土坑より新しい。床面 はほぼ平坦である。 炉 焼土粒を含む多量の灰を検出した。 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・台付甕・高坏 所見 5世紀前半 備考 台付甕は台の形態から、口縁部が「く」の字のタイプと考えられる。胴部外面の調整はヘラケズリのみである。高坏は、坏部のみが残っていたが、がっしりした脚がつくタイプと考えられる。



16区113号住居

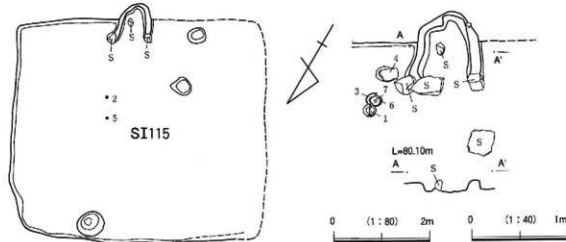
位置 16区 規模形状 長さ6.10m、短辺6.00mの正方形プランを呈する。残存壁高0.20mを測る。主軸方位 東-10° 北 重複 152号住居を掘り込む。床面 部分的に黄褐色土粒を含む黒褐色土で貼床としている。カマド 東壁中央やや南に位置する。左袖先端は残っていない。奥行1.70m、突き口幅0.45mを測る。両袖先端部には川原石の袖石がある。燃焼部中央で川原石にかぶさった状態の土師器坏を検出した。支脚と考えられる。柱穴 住居壁近くに多くのビットがあるが、主柱穴は特定できない。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.90m、短軸0.80m、深さ0.45mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・高坏・埴、小型粗製土器柄、石製模造品剣形・白玉、蛇紋岩製管玉(18)、鉄製釘、デイサイト製砥石 所見 6世紀初頭 備考 土師器甕は、長胴の甕のほかに口縁の大きなタイプがある。土師器坏は、内湾口縁、内斜口縁、須恵器甕模倣坏があるが、内湾口縁と内斜口縁に暗文がないものがある。





16区115号住居

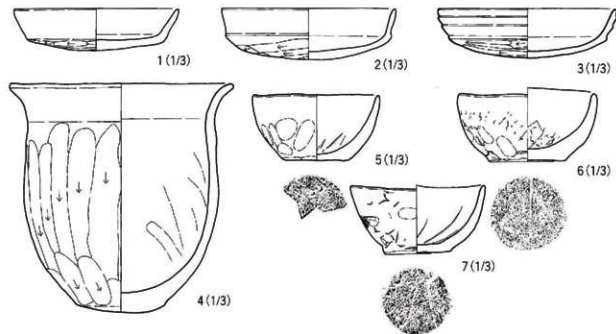
位置 16区 規模形状 長辺5.30m + a、短辺4.62mの方形プランと推定される。残存壁高0.30mを測る。主軸方位 南-34° - 東 重複 126号・152号・161号・167号住居を掘り込む。床面 ほぼ平坦で貼床が認められる。カマド 南壁のは中央に位置する。奥行0.80m、焚き口幅0.50mを測る。両袖先端の袖石は凝灰岩で、焚き口付近から砕けた天井石と見られる凝灰岩を検出した。燃焼部中央やや左から支脚とみられる10cmほどの川原石を検出した。柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏、小型粗製土器碗 所見 6世紀中頃 備考 土師器坏は、須恵器釜模倣で口縁に段のはっきりついたタイプと、口縁が開き気味でやや口径の大きなものがある。小型粗製土器（5）～（7）の存在も特徴的である。



第565図 16区115号住居

第566図 16区115号住居カマド

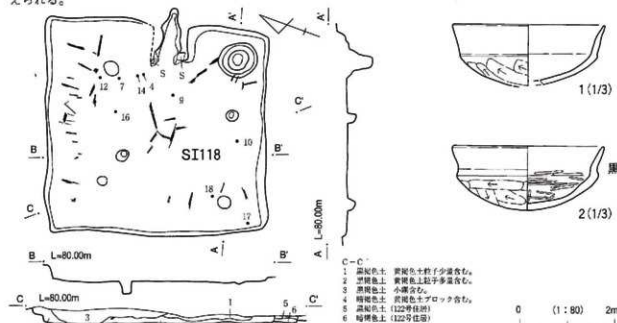
第IV章 古墳時代の遺構と遺物



第567図 16区115号住居出土遺物

16区118号住居

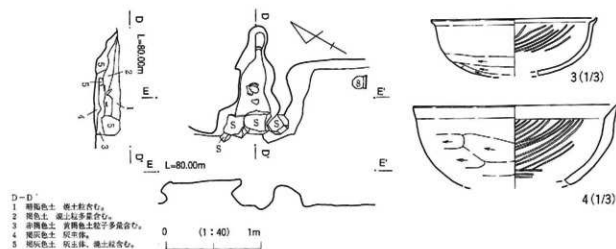
位置 16区 規模形状 4.60m、4.40mの正方形プランを呈し、残存壁高0.20mを測る。主軸方位 東-13° 北 竪横 122号・133号住居、10号溝を掘り込む。床面 ほぼ平坦で貼床が認められる。カマド 東壁中央に位置する。奥行0.95m、焚き口幅0.40m、煙道長0.25mを測る。雑石は凝灰岩、天井石も凝灰岩で焚き口に組んだ状態であった。柱穴 四隅に柱穴がある。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.70m、深さ0.56mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏・鉢、須恵器壺、ガラス製小玉、石製模造品白玉 所見 6世紀第1四半期 備考 大型化した内斜口縁坏(4)や、内面を黒色処理した須恵器蓋模倣の坏が共存する。なお、住居床面全体から炭化材が検出されている。焼失家屋の可能性も考えられる。



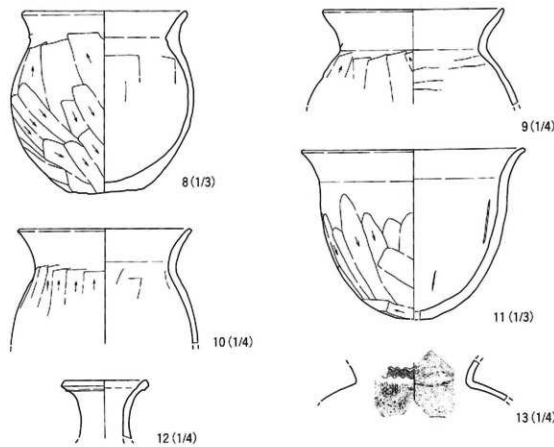
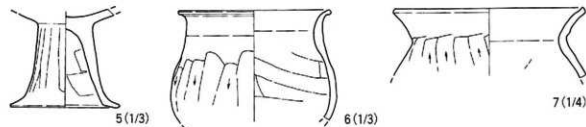
第568図 16区118号住居

第569図 16区118号住居出土遺物-1

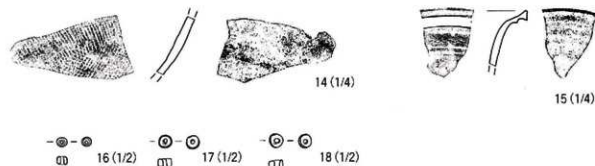
第1節 竪穴住居



第570図 16区118号住居カマド



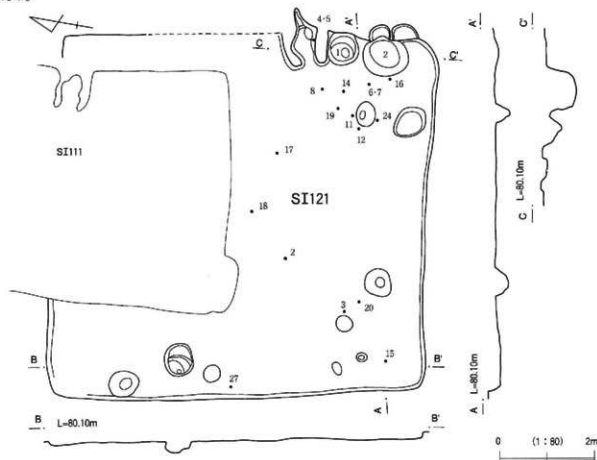
第571図 16区118号住居出土遺物-2



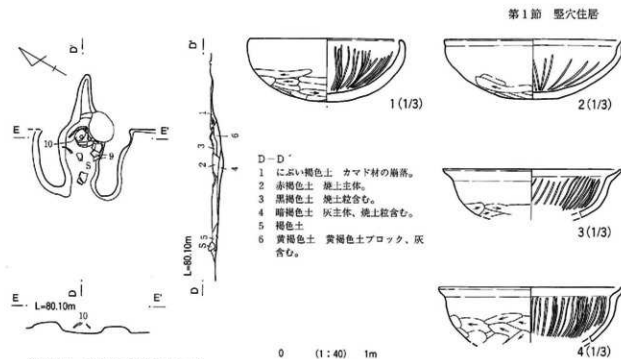
第572図 16区118号住居出土遺物—3

16区121号住居

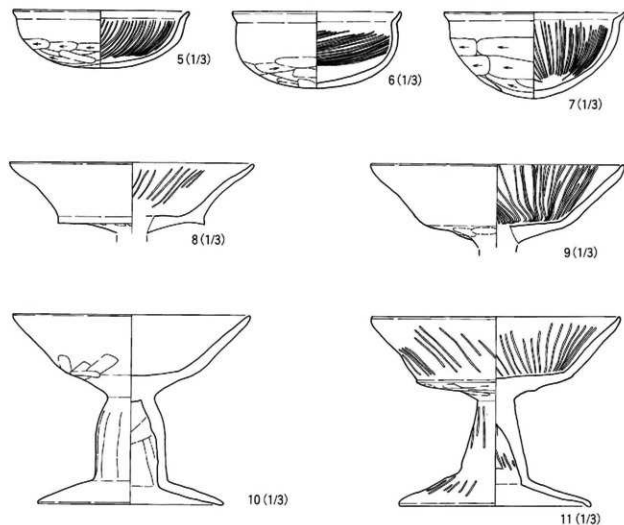
位置 16区 規模形状 長辺7.90m、短辺7.70mの正方形プランを呈する。残存壁高0.18mを測る。 主軸方位 東—14°—北 重複 112号・170号住居を掘り込み、111号住居に壊される。 床面 は平坦で貼床が認められる。 カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行0.85m、焚き口幅0.32m、煙道長0.48mを測る。 柱穴 住居の残っている南と西壁近くに金剛石は無いが柱穴とみられるピットが並ぶ。 貯蔵穴 2基検出している。貯穴1はカマド右脇に位置し、径0.70m、深さ0.30mを測る。貯穴2は貯穴1の南側に位置し、長軸1.00m、短軸0.80m、深さ0.66mを測る。 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏、石製模造品剣形、磁石 所見 5世紀後半 備考 須恵器坏身(22)は舟形で平底、底部不定方向手持ちヘラクスリ調整である。TK73段障である可能性が高い。土師器の高坏は坏部と脚部が大きいタイプ、坏の内斜口縁・内凹口縁とも平底の個体も混える。



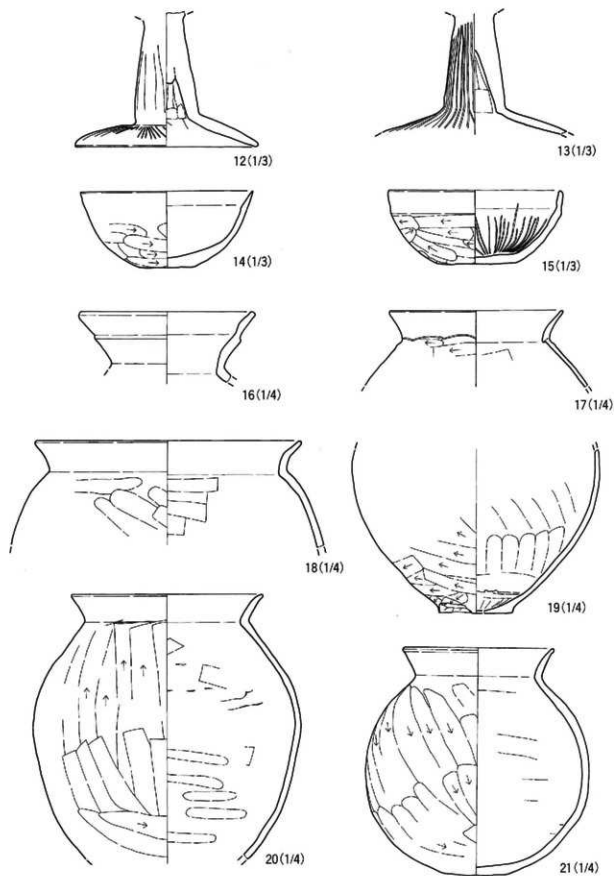
第573図 16区121号住居



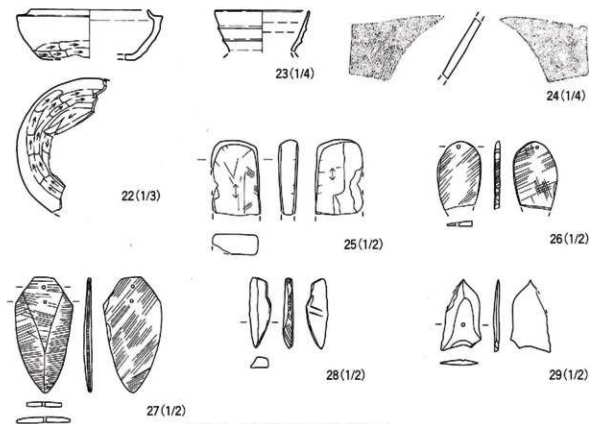
第574図 16区121号住居カマド



第575図 16区121号住居出土遺物—1



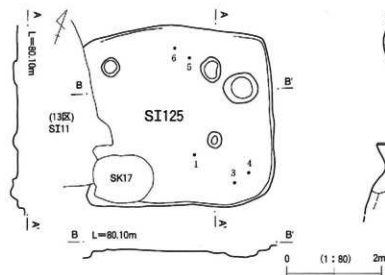
第576図 16区12号住居出土遺物-2



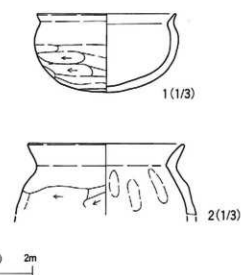
第577図 16区12号住居出土遺物-3

16区125号住居 (13区125号住居)

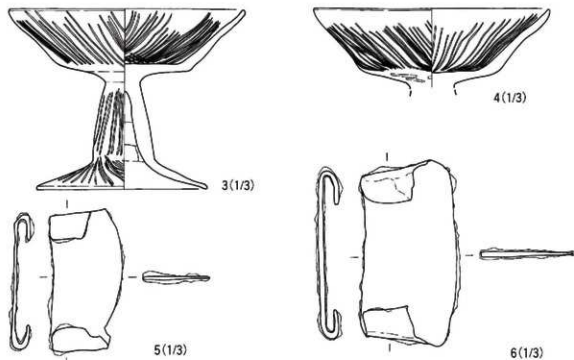
位置 16区 規模形状 東西3.80m、南北3.90mの方形プランを呈する。主軸方位 東-12° 一北 重複 13区11号住居と17号土坑に横される。床面 は平坦である。炉 不明 柱穴 3基確認。南西部分は不明。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏、高坏、鉄製縦先 所見 5世紀後半 備考 炉・カマドの遺構は検出されていないが、規模の小さな炉があった可能性がある。土師器坏は口縁がシャープなつくりで体部が深い。内面の暗文はない。高坏は坏部・脚部とも大きなもので全面暗文がある。



第578図 16区125号住居



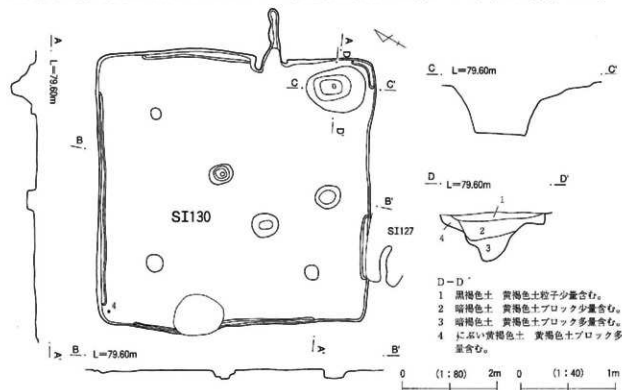
第579図 16区125号住居出土遺物-1



第580図 16区125号住居出土遺物-2

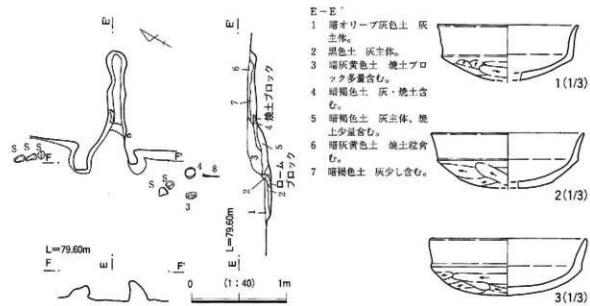
16区130号住居

位置 16区 規模形状 正方形を呈し、一辺5.70m、残存壁高0.80mを測る。主軸方位 東-42°-北 重複 131号・133号・139号・149号住居を掘り込み、127号住居に壊される。床面 平坦面を形成している。カマド 東壁中央やや南側に位置する。奥行0.55m、焚き口幅0.39m、煙道部長0.77mを測る。袖は僅かに張り出し、燃焼部の大部分は住居壁を掘り込んで造られている。燃焼面は床面とは同レベルで、中はよく焼けていた。

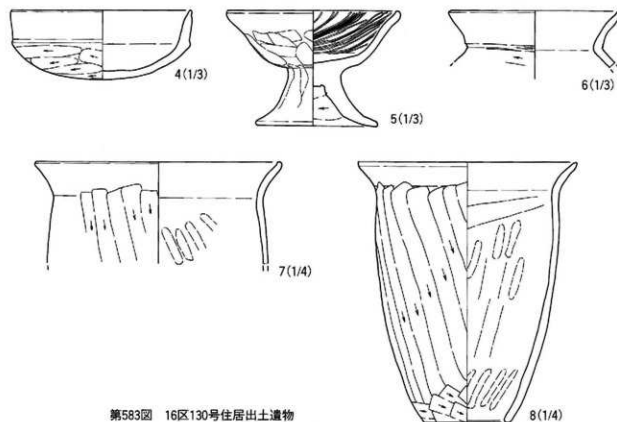


第581図 16区130号住居

柱穴 住居隅で検出。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸1.20m、短軸0.95m、深さ0.54mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・瓶・杯・高坏 所見 6世紀第1四半期



第582図 16区130号住居カマド

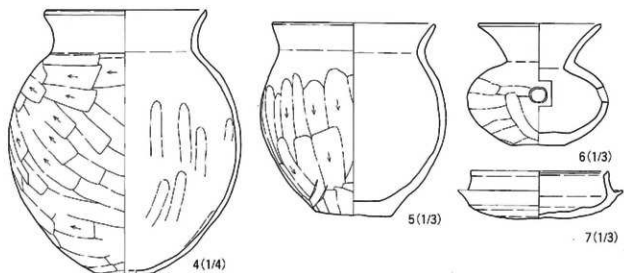
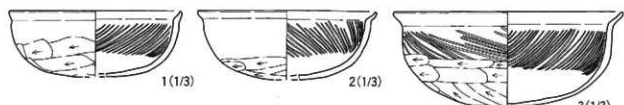
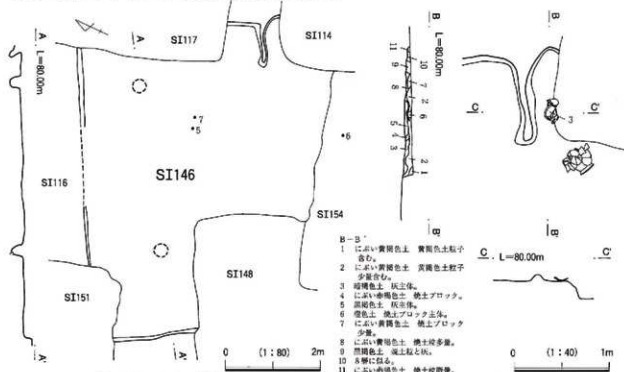


第583図 16区130号住居出土遺物

16区146号住居

位置 16区 規模形状 住居の北東部と、南壁の一部を検出した。南北4.5mで東西は不明。方形プランと考えられる。主軸方位 北-20°-東 重複 116号・162号住居を掘り込む。114号・117号・148号・151号住居に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし

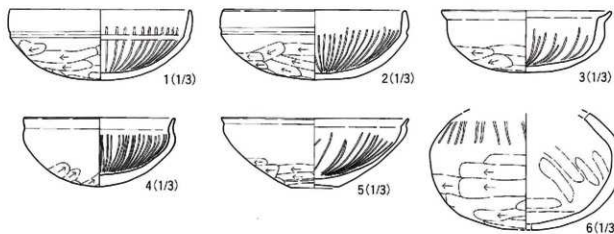
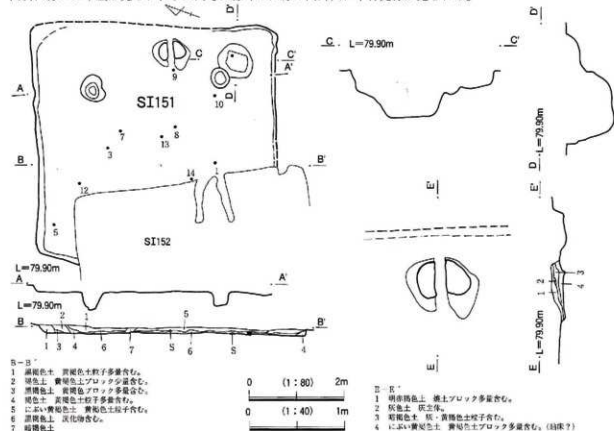
遺物 土師器・甕・杯・ハソウ。須恵器環甕(坏身) 所見 須恵器甕坏(坏身)は、口径が小さくたちあがり端部や受部が丸い。TK47併行期に位置づけられる。土師器のうちの内斜口線が見られるが大型化したものがある。土師器ハソウ(6)は、須恵器の模倣と考えられる。



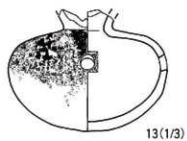
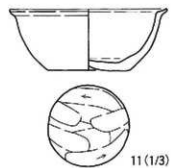
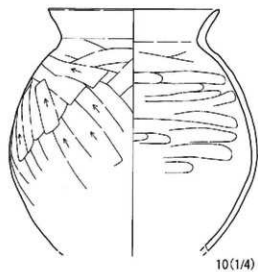
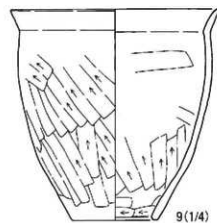
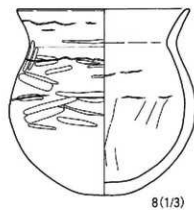
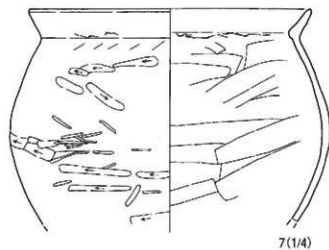
第586図 16区146号住居出土遺物

16区151号住居

位置 16区 規模形状 新しい住居に壊されかなりの部分が推定となるが、南北5.0m、東西5.0mの正方形プランが考えられる。主軸方位 東-27°-北 重複 116号・152号住居に壊される。床面 は平坦である。カマド 東壁の位置にあるが、壁近くは116号住居に壊されている。柱穴 南西をのぞく住居の四隅にある。貯蔵穴 南東隅にある。楕円形プランで、長軸1.0m短軸0.8m深さ0.50mである。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・甕・杯・須恵器ハソウ、蛇紋岩製管玉 所見 5世紀後半 備考 須恵器坏(11)は平底で、底部手持ちヘラケズリ調整である。初期須恵器でも、最古の段階と考えられる。須恵器ハソウは頭部が細く外面に波状文や沈線がない。TK73ないし216と考えられる。土師器は内斜口線と内湾口線の坏があるが、内斜口線には平底が見られ、また内湾口線は口縁の内外面に平行沈線が見られる。



第589図 16区151号住居出土遺物一



第590図 16区151号住居出土遺物-2